

はじめに

どーも、福沢です。

今回、僕の読者さんから日々添削や質問を数多くいただく中で
そもそも**正しいラインを引けていない人**がかなり多く見受けられたので

これじゃダメだなと思い、
今回ラインの引き方や、引く場所を徹底的に基礎から固めていって
「この相場の場合はここに引くのが正解」、「こうときはここに引いたらダメ」という風に
自分でも**完璧に正しいラインを引けるようになってもらう**ために
その「指南書」としてこれを作りました。

正しいラインを引けると必然的にトレードにも安定性が生まれ
リスクリワード比や勝率も上がり結果的に「堅実な勝ち」に繋がることは言うまでもありません。

なので、**勝てるための最優先事項は、まずはこの「正しいライン」を引けるようになること**
になります。

正しいラインが引けないと話にならないし
正しいラインを引けるという、その上で僕のエントリーマニュアルのやり方や考え方が
成り立っているの、これを読んでもあなたにはまず、「正しいライン」を
リアルタイムの相場でしっかり引けるようになってもらいます。

とはいえ、「**相場は生き物**」とも言われているくらい
同じ相場は2度と来ません。

ブログやメール講座でも言っていることなのですが
2度と同じ来ないものに対して、「正しいラインの引く場所を教えて!」と言われても
「このラインに対してこう動きをする」という絶対的な答えはありません。

先ほども言ったように、相場は生き物で僕ら人間や動物と同じように
常に意思を持って動いていると思ってください。

その中で、「正しいラインはここに引く!」と言っても
相場によっては機能する場合もあれば、機能しない場合もあります

当然です、生き物なのですから。

じゃあどうすればいいか？

大事なのは「**ラインをその時々相場に合わせて引く**」ということなんです

相場は生き物なんだから、その生き物の動きに合わせて
ラインを引いていくというイメージをしてください。

つまり、相場のパターンや形、流れに合わせてラインを引き
そこから流れが変わるポイントや、エントリーができるポイントを導き出していくんですね。

なので、この本書では

「相場がこういうパターンのときは〇〇にラインを引くと意識されやすい」
「こういう流れのときは〇〇にラインを引かなければならない」
「こういう形のときは〇〇のラインに気をつけて〇〇を抜けると大きく狙える」

といった、ケースバイケースをできる限り多く集めて
一つずつ、細く具体的にそのラインに対しての説明をしているので

**ある程度、どの相場でもどこにラインを引くのが正しくて
どういう風に狙っていくのか？ということが分かるようになるはずです。**

何度も言いますが
FXで勝ち続けるためには、本当に「正しいラインを引けること」が必須になってくるので
その正しいラインを習得するために、**この本書で徹底的に学んでください。**

1、基本的な正しいラインの引き方&ラインを引くときに絶対に意識しなければならない重要なポイント

1-1、正しいラインは〇〇を意識して引く

では、まずその正しいラインとはどういうラインのことを言うのか？というところからですが

正しいラインというのは、そのラインでしっかりと機能してそこでレジスタンスやサポートといったレートの切り返しが起こるポイントに引けているラインというのが、正しいラインになります。

ラインの引き方自体は

「上下（目線）を分けるライン」も「エントリーに使うレジサポライン」も何も変わりません。

引き方自体は、例外なく全てのラインにおいて統一していて共通ですがただ、**引く場所が相場によって変わってきます。**

なので、この章ではまず一番基本的であるラインの正しい引き方を説明していきます

基本的にはなりますが、基本がもの凄く大事ということは言わなくても分かると思います 笑 本当に基本ありきですからね^^;

まず、正しいラインを引くときに絶対に押さえておかなければならない重要なポイントは3つあります。

1、「必ず高値、安値を意識して引く」

2、「支持点の数」

3、「ラインはある程度アバウトに考える」

です。

1の「**必ず高値、安値を意識して引く**」から順に説明していきますね。

この1、についてはブログやメール講座の方で何回か話したこともあるので知っているという方もいるかもしれませんが
今回はさらに掘り下げて、具体的に説明していきます。

さて高値、安値を意識して引くということなのですが
これはその言葉の通りでラインを引くときは必ず高値、安値を意識して引く。
ということです

相場って常に高値、安値を作り
その高値、安値で止められたり、はたまたそれを更新したりして
その連続で動いているので、パッと相場を見るだけでも
かなり多くの高値、安値がありますが、だからと言って
全ての高値、安値にラインを引くというのは完全に間違ってますよね。
(さすがにそんな人はいないと思いますが 笑)

よって、ここで大事なのは**どの高値、安値に注目してラインを引くか？**なんです

その相場で重要になる高値、安値に注目して
ラインを引かなければなりません。

この**重要になる高値、安値**も
当然ですが、その時々相場によって変わってきます

↓の画像を見てみてください



適当に持ってきたドル円のチャートですが

例えば、この相場で注目しなければいけない高値、安値はどこになると思いますか？

注目しなければいけない重要な高値、安値の探し方としては

「波の動きをイメージすること」です

どういうこと??という声が聞こえてきそうですが

↓の画像を見てください

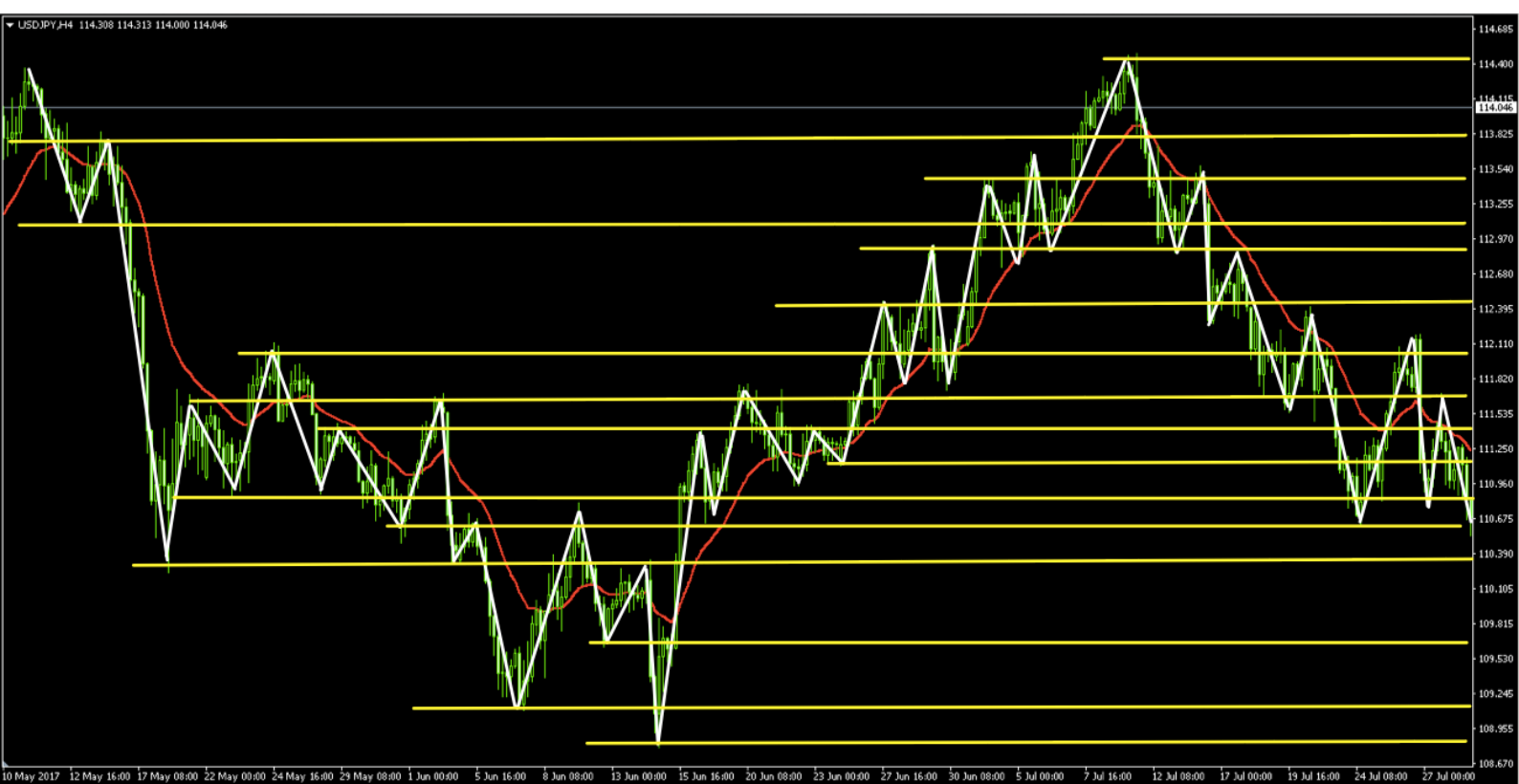


白線が動きが「波」になります。

こういう風にして「**波の動き**」をイメージすると
注目すべき高値、安値が浮かび上がってくるんです

つまり、白線の波のが「上→下」に「下→上」に
切り返してるポイントこそが注目すべきところであり
重要な高値、安値のポイントになるわけです。

この波の動きをイメージしたまま
白線の波が切り返しているところにラインを引いて見るとこんな感じになります↓



いや～見にくい！ 笑

白線の波が切り返しているところ全て引くとかこんな感じになります、、

かなり、見にくいですし
実際このラインを使ってトレードしても負けまくると思います

・・・うん??

さっきは「注目すべき高値、安値にラインを引くべき」って言ったのに
そのラインを使って負けまくるんだったらダメじゃん！って思うかもしれませんが

ここで、2の「支持点の数」を考慮します

こんな無駄に数だけ多いラインを引いても機能しないですし
機能しないということは、やっぱり勝てないです。

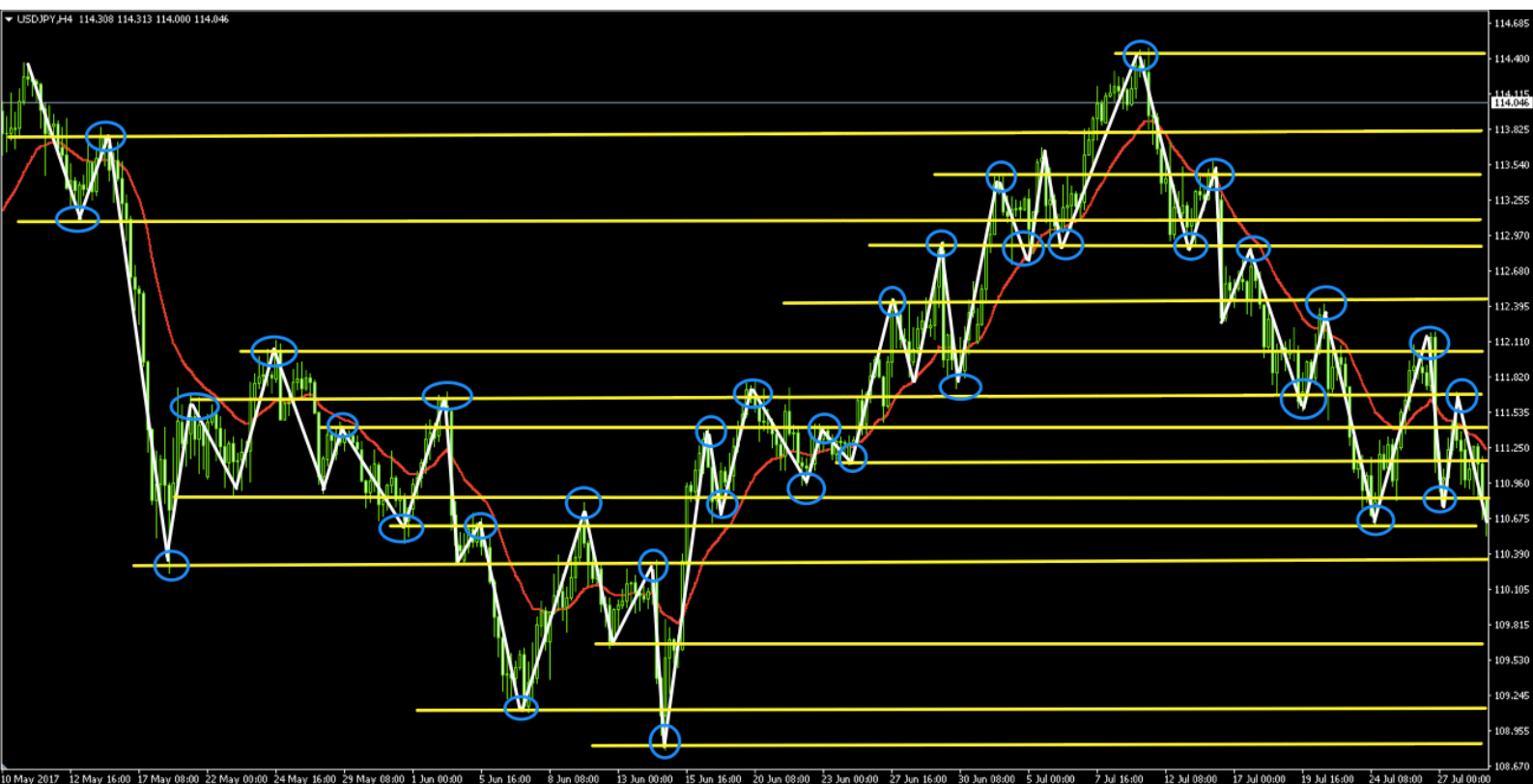
じゃあどうすればいいのか？と言うと
実際にトレードに使えるライン、つまりしっかりと「意識されるライン」だけを
ここから絞り込んで無駄なラインを排除していくんです

で、そのために利用するのが「支持点の数」になるんです。

では、その「支持点」とはなんぞや？というところからですが

簡単に言うと「レートがそこで止められたという事実」があるポイントのことです。

↓の画像を見てください



青丸のポイントは黄ラインに止められているポイントです。

「止められている=黄ラインで支持されて反発している」

ということになり、つまりこの青丸が**支持点になる**ということなので

「支持点の数」とは、この青丸の止められている事実の数ということになります。

ここまで来ると、もうお分かりかもしれないですが

「結論から言うと、支持点の数は多ければ多いほど良いです」

なぜかと言うと

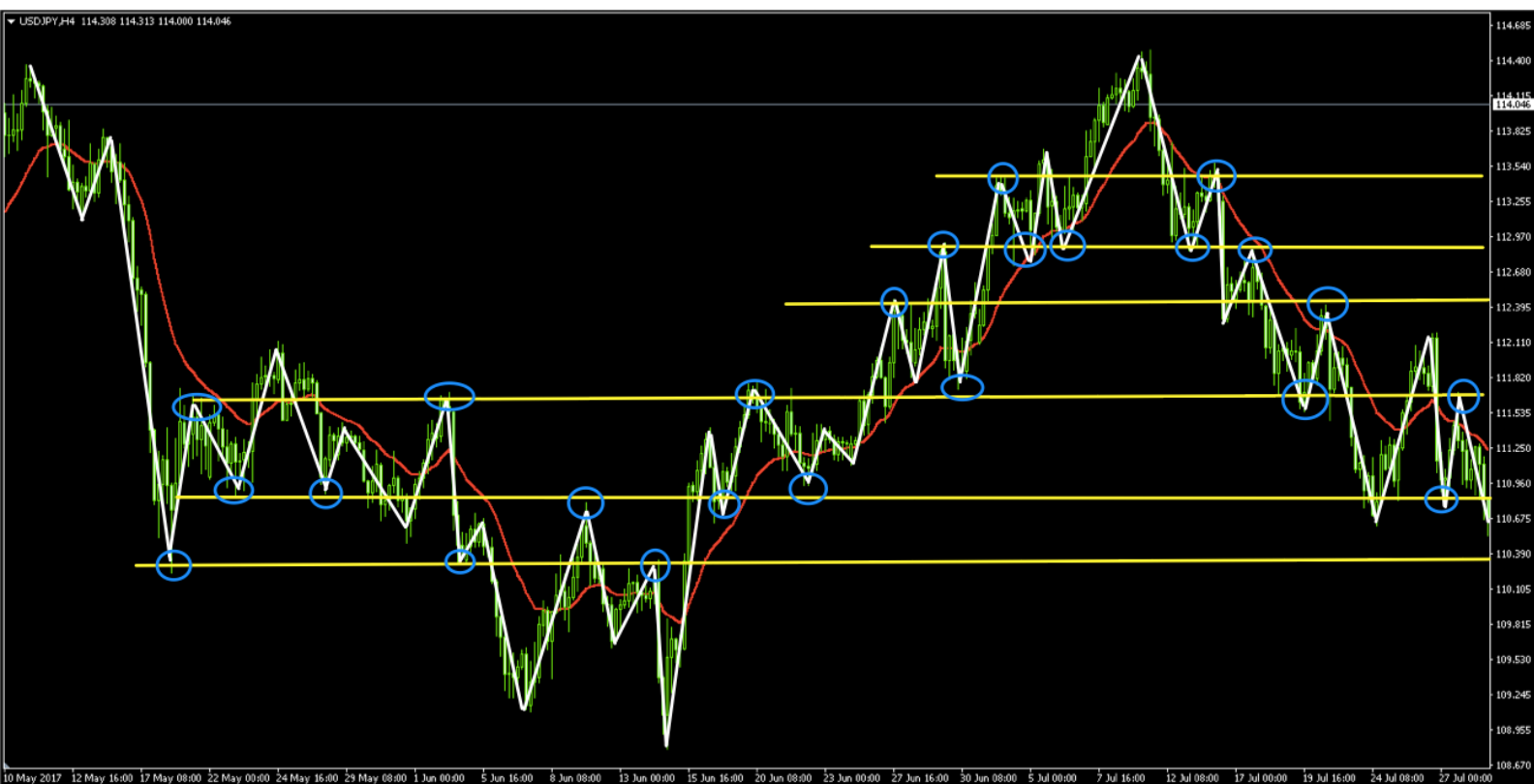
支持点が多いという事は、そのまま世界中のトレーダーが意識しているポイントに直結するからです。

世界中のトレーダーが意識しているから、そこで大量の注文が入り
その結果、そのポイントで跳ね返されるという事象に繋がるわけです

そういう世界中のトレーダーが意識しているポイントが
先程言った通り、「**支持点が多い**」という事実としてしっかりとチャート上に現れている
ということなんです。

では、この「**支持点の数**」も考慮して

先程の黄ラインを、「意識されているライン」のみに絞ってみましょう



どうでしょう？

だいぶ、スッキリして見やすくなりましたね。

これが、洗練された「意識されているライン」になります

このラインをレジスタンス、サポートに使って
トレードをしていくわけです。

あと、ラインを引く上でもう一つ大事な考え方があります。

3、の「ラインはある程度アバウトに考える」です

どういう事かと言うと

これは、ラインに対しての相場の動き方の部分です。

サポート、レジスタンスをされたどうか？という判断にも繋がってきますが
ラインが意識され、効いていると判断できる許容範囲の事です

要は、そのラインを1 pipsでも抜けたら「よし抜けた！」という判断をするのではなく
ある程度アバウトに「そのライン付近」という風に考えるという事です。

というのも、自分が引いたラインで

1 pipsの誤差もなくピッタリ反応して跳ね返してくるという事はほぼありません。

仮に、そのライン付近のエリアが意識されている状況だとしても

そのライン自体が、そのまま誤差なく意識されているというわけではなく

「そのラインを中心としたその付近のエリア」が意識されているという事なので

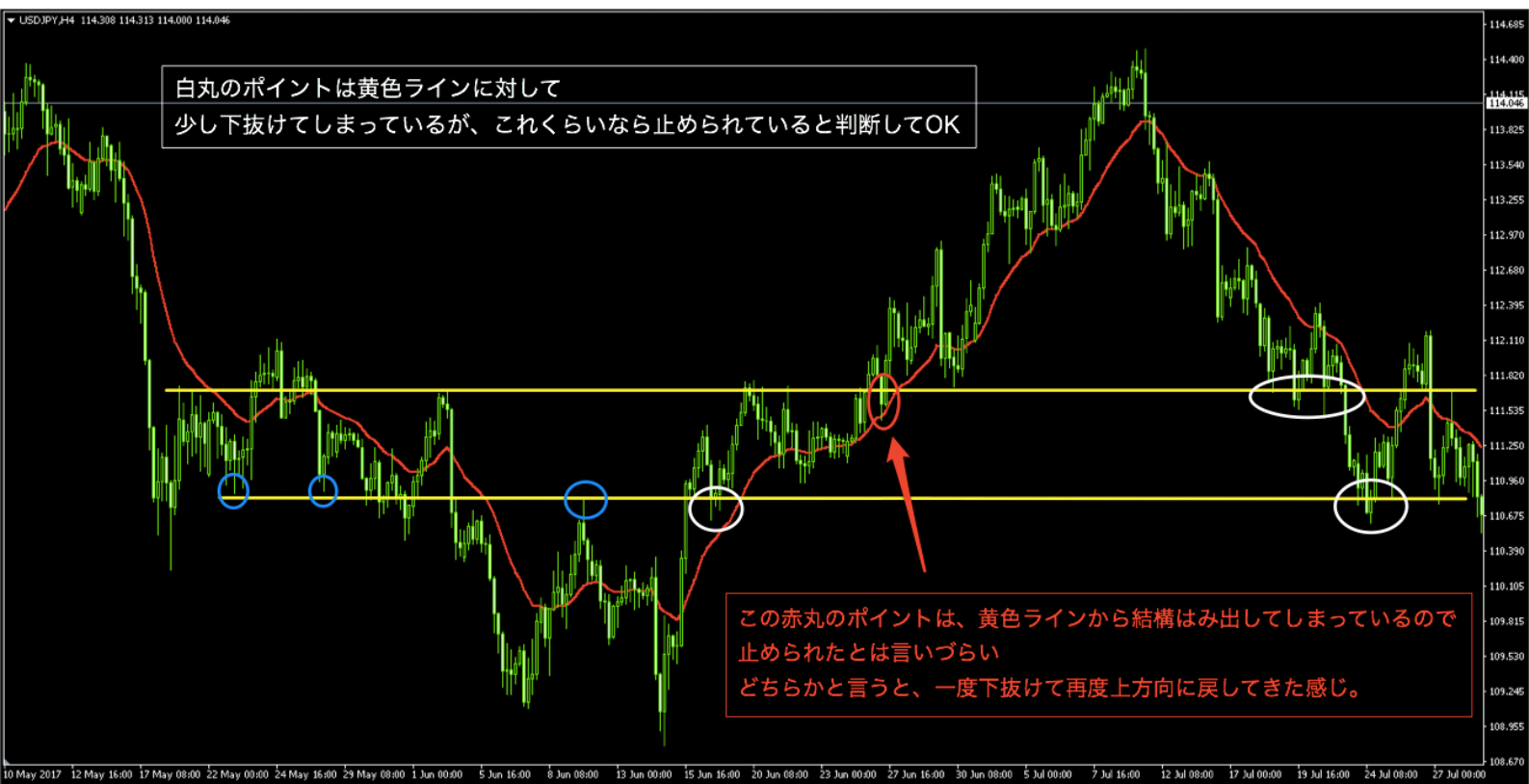
同じところに引くラインでも、引く人によって3～5、6 pipsくらいの誤差は普通に出来ます

なので、ある程度の余裕を持ってアバウトに捉えてほしいとはこういう事です。

ですが、あくまで「そのライン付近」なので
その許容範囲を広げ過ぎてもダメです。

言葉よりも画像を見てもらった方が早いですね

↓の画像を見てください



(見やすいように白線の波の動きを消しました)

先程と同じチャートですが、青丸のポイントは綺麗に止められているので特に問題はありません。

白丸もこれくらいのはみ出しであれば
黄ラインで止められていると判断しても大丈夫です

問題は赤丸です。

この部分は、黄ラインに対してそこそこ大きくはみ出しているので止められているとは言いづらいです

どちらかと言うと、一度黄ラインを下抜けて再度上に上げていったという判断が適切です。

では、赤丸のようにラインに止められているという許容範囲を広くしすぎると
どういう事が起きるか？というと

世界中のトレーダーはそのラインで「止められた」という判断をしていないけど
自分だけはそこで止められたという判断してしまっている
当然、その後のトレードにも悪影響が出ます。

要は、自分一人だけがチャートの見方が間違っているんです。

FXって基本的に「みんなが買うところで買って」、「みんなが売るところで売る」という大衆に合わせた行動をしなければなりません。

自分一人の力じゃ相場を動かせないから
皆んなの力を借りて、自分もそれに乗っかるというイメージです。

なので、自分の一人だけがチャートの見方が間違っているというのは大問題なんです。

極端な話、世界中のトレーダーが「買いポジション」を持ってるのに
自分だけ「売りポジション」を持ってるというような現象と同じです。

そうすると、大衆が買いポジションで作った上げの流れに絶対に飲み込まれます。

圧倒的な取引量を誇るFXの世界で自分一人だけが
逆の方向を向いていては勝ち続けられるはずありません。

かならず、同調してくれる「大衆」が必要です。

**だから、ラインはある程度はアバウトに考えなければいけないが
アバウト過ぎてもダメということなんですよ。**

常に大衆と同じ判断をしなければいけないという事です。

まず、正しいラインを引く上で重要な3つのポイントを話してきましたが
ここまでは付いてこれてますか？^^

もう一度、おさらいすると

1、「必ず高値、安値を意識して引く」

2、「支持点の数」

3、「ラインはある程度アバウトに考える」

この3つです。

これは正しいラインを引く上で、めちゃくちゃ重要な事です
まだまだ基礎中の基礎になります。

これを読んでも皆さんにはこれらを瞬時に同時に考え、無意識でもこれら3つのポイントが

「癖付いていて勝手に意識できている状態」まで、もってってもらいたいと思ってます。

（例えるなら、外出するときに家の鍵を閉めたか？戸締りはちゃんとしたか？ということを感じてはいるけど、無意識にできている状態のような感じです）

この、「無意識だけど意識できている状態」になれば
そこそこ正確なラインを引けてるはずですが
それでも、まだまだ半人前です 笑

先ほども言いましたが、
ここまで、話した内容はまだまだ基礎中の基礎で
これから、さらに「ラインの強弱の見極め方」や
「具体的にどういう動きのときにはどこに強いラインが引けるのか？」
「相場の流れや段を意識したさらに強固なラインの引き方」
「絶対に覚えてもらいたいラインに対しての動き方のケースバイケース」
「ラインが効力を失う時、引きなおす時」

などなど、教えたことは他にもまだまだあります

そして、これらを全て理解、習得して一人前になってもらいます^^

ということで、ここから先も
どんどん進んでいくのでしっかり付いてきてくださいね。

1-2、ラインの強弱の見極め方

次は、これまでに話した「正しいライン」の強弱についてです。

ラインってどれでも一定の強さに見えて実はそうではありません
ラインにも「強いライン」と「弱いライン」があります。

ここでいう、ラインの強さとは「固さ」と考えてください

**つまり、ラインが強いほど固く、ブレイクしづらいので
跳ね返されやすくなるということです**

レートが跳ね返されやすい強いラインを見つける事が出来れば
そこだけを狙ってトレードすることができるので
結果として、勝ち続けていけるということに繋がります。

では、実際にどうやって
その強いラインを見極めていくのか？という事なんですが

強いラインを見極める際の重要なポイントとしては
ズバリ、「相場の流れと形（チャートパターンなど）」です。

**つまり、相場の流れに合わせて、さらに形やチャートパターンを
意識して引くラインが、より強いラインになり得るということです。**

と、なると当然

「どういう流れや形を意識すればいいの？」という疑問が出てきますよね。

なので、今回は特に意識すべき「形」と「流れ」に対して
「こういう動きのときには、こうラインを引く」という、具体例を出して
ケースバイケースで説明していきます。

種類ほどありますが、一つずつ理解して確実に消化していってくださいね

①、「相場の段」を意識してラインを引く

まずは、ブログでも紹介した「**相場の段**」を意識して
ラインを引く方法です。

段を意識したラインはかなり強く、また意識もされやすいので
絶対に覚えてください

これについては動画でも説明していて、もう見たという方もいるかもしれませんが
まだ見ていないという方はこちらを見てください↓

[意識されるラインの引き方 《相場の段を意識する》](#)

(↑クリックすると動画ページへ飛びます)

動画内で説明しているように
結構誰にでも判断がしやすく、かつ強いラインになるので
ぜひ、実際のトレードにも活かしてください。

動画だけじゃイマイチ理解できないという方に
画像を使って説明するので、↓のチャートを見てください



先ほどの動画で使ったチャートとは違うチャートです。

ここに「段」を意識してラインを引くとしたらどこになると思いますか？

少し考えて、自分の頭の中でラインを引いてみてください。

、、、

、、、

、、、

正解はこんな感じになります↓



白ラインを境に「段」が切り替わってるので

「段」を意識した時に引くべきラインは↑の画像のような感じになります。

赤の四角と青の四角で囲った

「どっちつかずのエリア」を注目すると
自ずとラインを引く場所というのも見えてくるはずです。

なので、どこにラインを引けるのだろう？と漠然と探すのではなく

まずは、「段」が出来ているか？というのを探しそこに対してラインを引いていく。
というのが、まだ意識されるラインをどこに引けばいいのか分からない人にとっては
意識されるラインを見つけ出す一番簡単な方法です。

ちなみに、「どっちつかずのエリアだからトレードが出来ない」
と思っている方をたまに見かけますが

そんなことはなく、「どっちつかずのエリア」でも
全然トレードしてOKなのでそこは勘違いしないでくださいね

あくまで、どっちつかずのエリアは
この意識される強いラインを見つけ出すために利用する相場の動きの一つと捉えてください。

しっかりと、「段」を見つけられるようになってくださいね^^

では、次のケースを説明していきます。

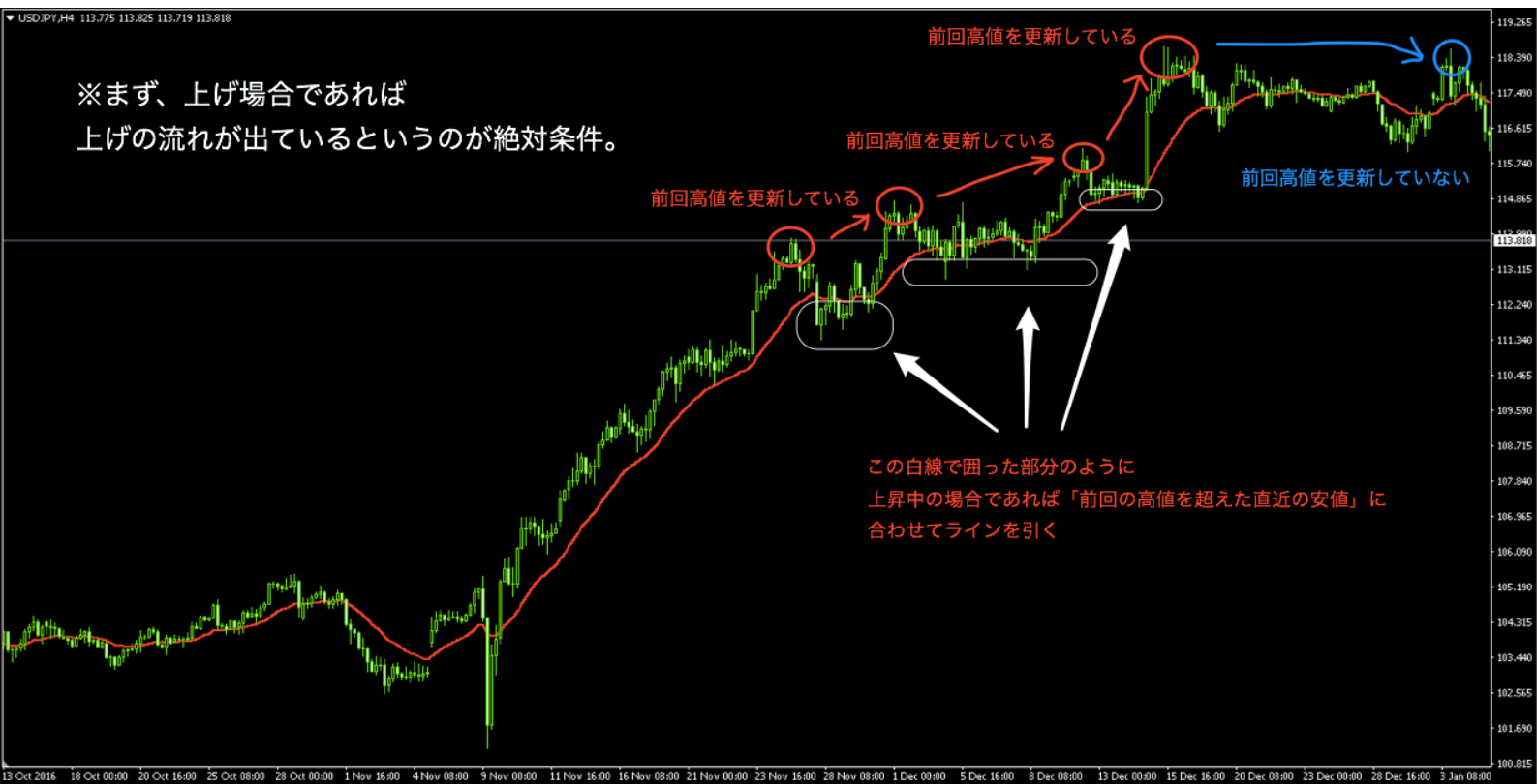
②、「高値安値を更新した前回の高値安値」を意識してラインを引く

一瞬、ん？？ということ？？となると思いますが

これは、上昇なら上昇、下降なら下降の流れが出来ているときに
「上昇中なら前回の高値を更新した直近の安値」
「下降中なら前回の安値を更新した直近の高値」を意識してラインを引く
ということです。

いまひとつ分かりにくいかと思いますので
まず理論から詳しく説明していきますね。

↓の画像を見てください



理論的にはこういうことです。

つまり、上げの流れが出ているときに
前回の高値を更新して伸びていくという動きがあったとします。

(赤丸ポイントです)

上げの流れが出ているので高値、安値を同時切り上げているということは
当然といえば当然のことですが

**この前回の高値を更新したことによって、白線で囲った直近の安値が
かなり意識されるポイントになります。**

なぜかという、前回の高値を超えるということは
その高値の付近よりも「買い」の圧力が大きくなっているということなので
じゃあこの「買いが大きくなった原因」はどこ??と、考えると

「1-1 正しいラインは〇〇を意識して引く」のところでも言ったような
波の動きを見ると分かりますが、**直近の安値（白線で囲ったところ）で下げ止まり
そこでみんなが一斉に買ったから。ですよ**

こういうこともあり
結果的に買いがより大きく膨らみ、前回の高値を更新するという事象に繋がったわけです。

なので、そのみんなが「買うキッカケ」になった安値は
どうしても意識されてしまうポイントなんです。

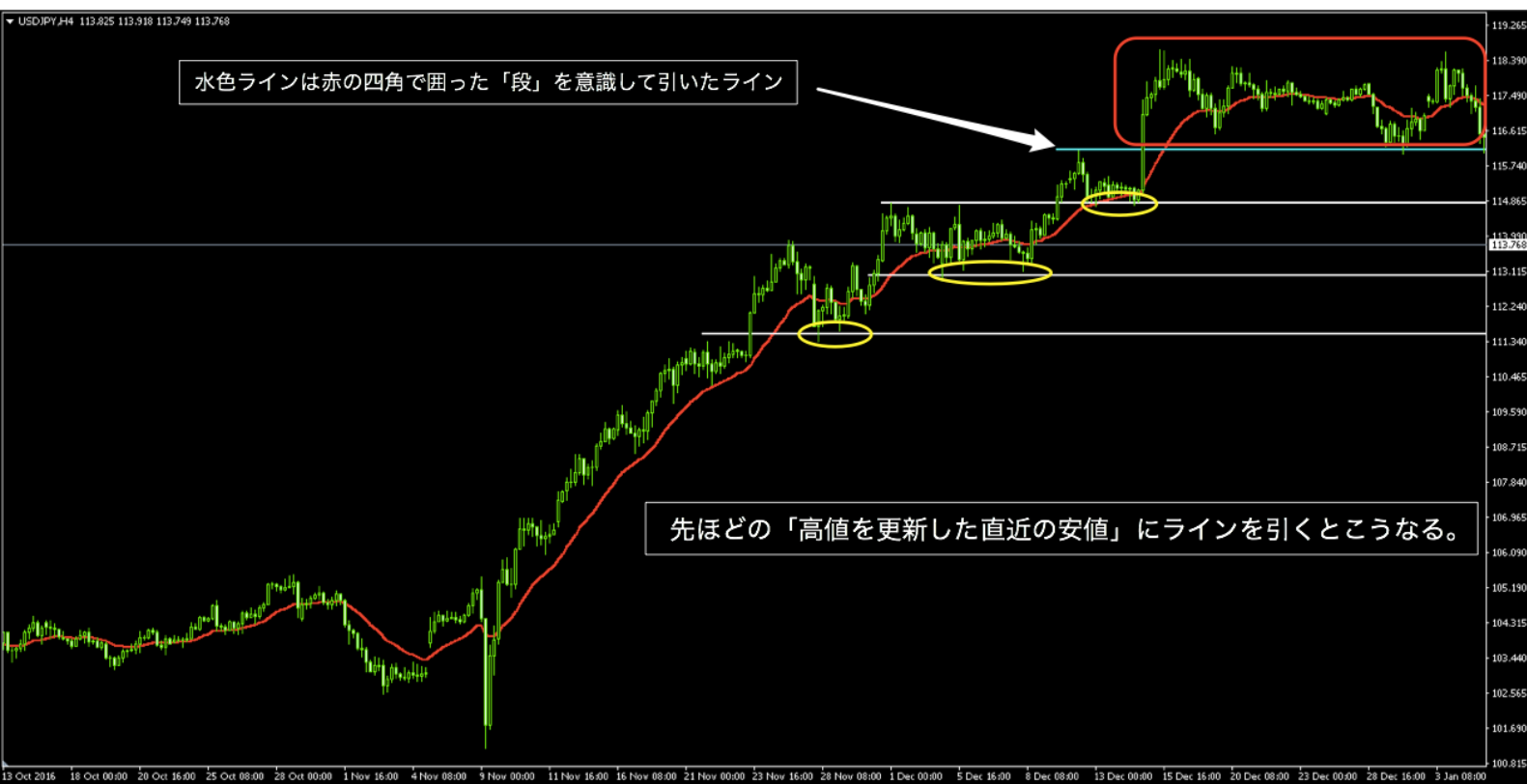
なので、ここに合わせてラインを引いてください。

そして、上のチャートを見ると
最後に高値を更新していないところがあります。
(赤丸→青丸のところです)

この場合は、当然高値を更新しておらず
買い注文がそれほど多くないという判断ができるので
直近の安値もそれほど意識されないことが多いです。

ただ上のチャートの場合は
たまたま、先ほど説明した「段」を作ってるので
青丸の高値のすぐ下の直近安値に引けるラインは意識されます^^;

で、実際にこの白線で囲った安値に
ラインを引くとこんな感じになります↓



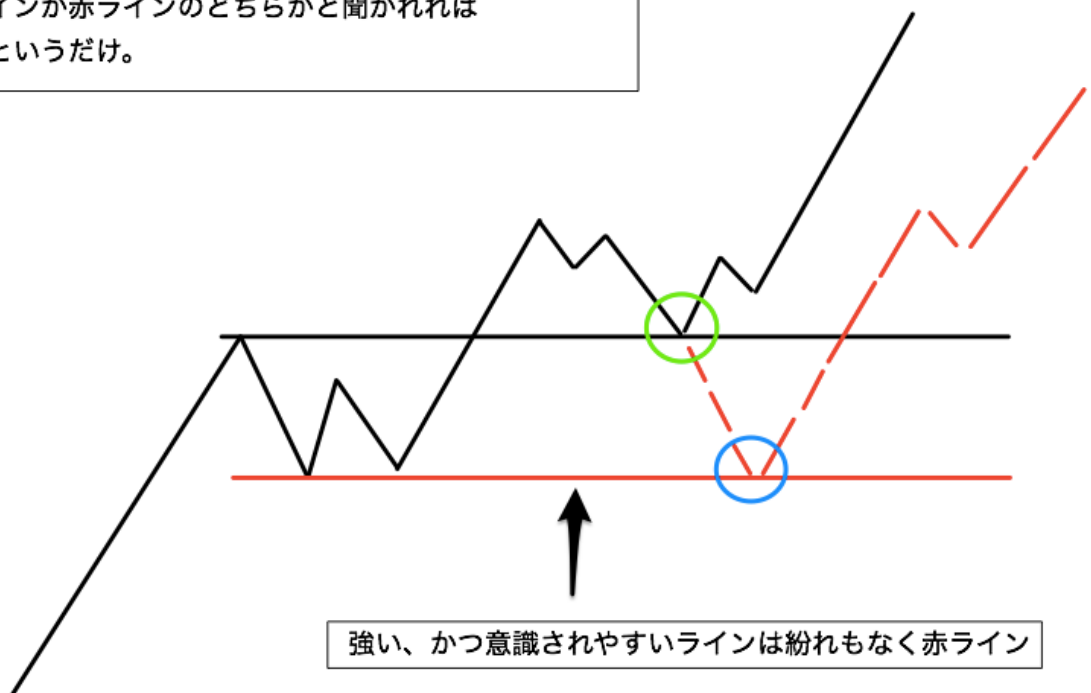
白ラインが「高値を更新した直近の安値」に引いたラインです。
(水色のラインは先ほども言いましたが「段」を意識して引いたラインです)

で、ここで鋭い人や多少の経験がある人は
一つの重大ことに気がついたかと思います。

そもそも上昇中であれば高値にラインを引いて、そこを更新すれば
次はそのラインで下げ止まると予想できるのか??と、、、

図で説明すると↓のような感じです

もちろん、黒ラインで下げ止まりそこから上げに転じていく場合もあるので
ここにラインを引くのは全然間違いではない。
ただ、強いラインが黒ラインか赤ラインのどちらかと聞かれれば
「赤ラインの方が強い」というだけ。



黒ラインはいわゆる、ネットや書籍などでよく紹介されている
前回の高値にラインを引いてそこから反転上昇していくところを狙おう。

というようなラインだが、もちろんこれは間違いではない。

当然、ここから上げていくというパターンもあるので
ラインの引き方自体は間違っていないが問題はその「強さ」

緑丸のポイントと青丸のポイントでは
やはり、断然青丸のポイントの方が意識されやすい

理由としては、先ほども言った通り「上げるきっかけになった安値」だから。

そして、青丸でサポートされているという判断をした後に
買いでエントリーをしたとしてもその後の狙える値幅も
青丸から上げていく動きの方が大きいんです
(赤点線のような動きを狙うのがセオリー)

つまりはこうです。

「黒ラインから上げていく場合も当然ある。」
だが、
「赤ラインから上げていく場合の方が勝率も高く、かつ値幅も大きく狙える。」

ということです。

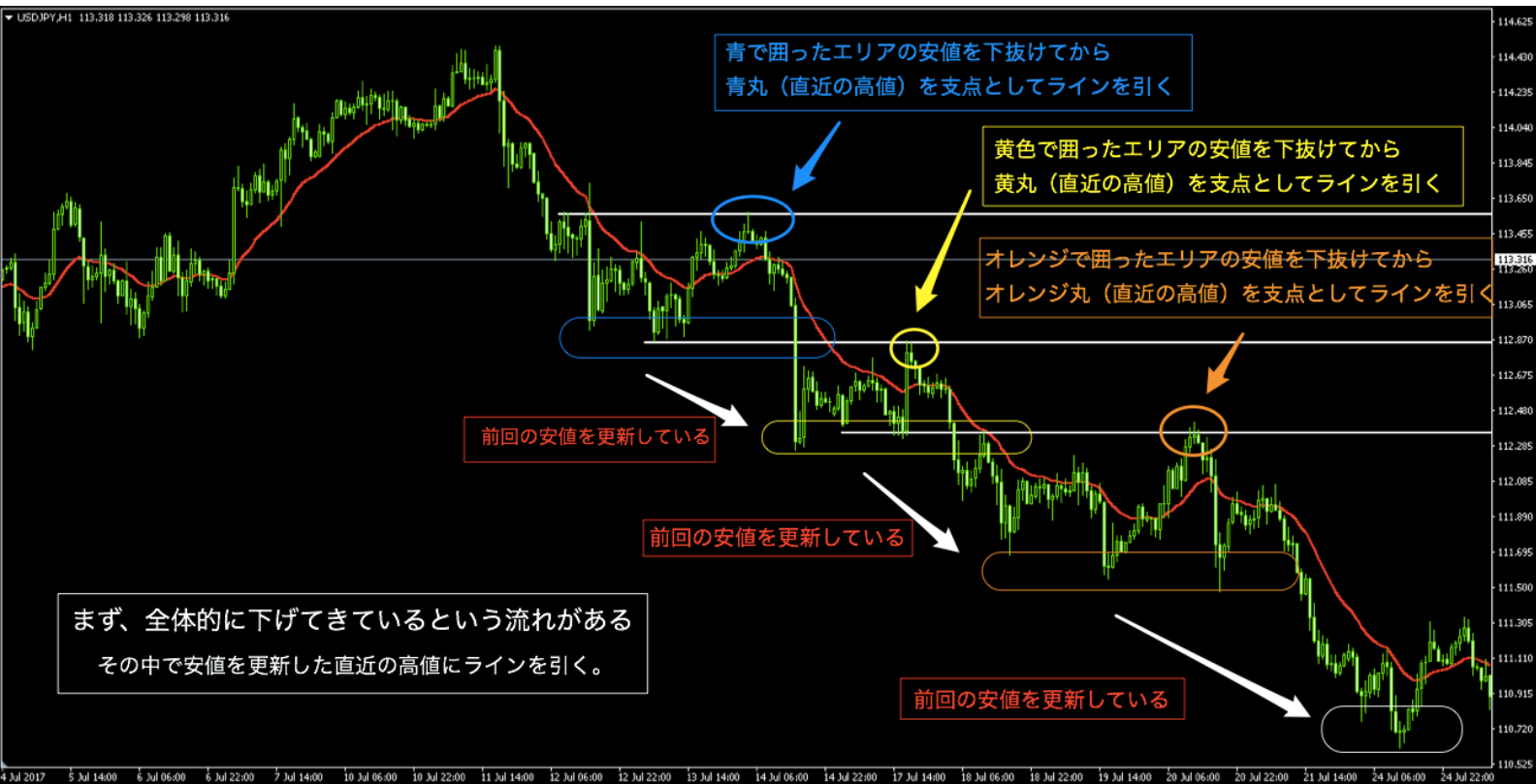
この2つの選択肢があり、どちらか一つを選ぶとするなら
当然、「赤ラインからの上げ」の方を選びますよね 笑

だから、この安値にラインを引いてそれを使ってトレードするんです。

では、次は「下げ」の流れが出ている場合の引き方も説明していきます

今までは、上げの流れで説明してきましたが
上下が逆になるだけで全く理論は同じです。

↓のチャートを見てください



先ほども言いましたが
流れが逆になり高値、安値の考え方が逆になっただけなので
なにも難しいことはありません。

上のチャートは少し見にくいですが
まず、下げの流れが出ている。
そして、その中で「前回の安値を更新した直近の高値」にラインを引く。

これだけです 笑

やはり僕自身、長年相場を見ていく中で
ファンダメンタル的要因が作る、長期間に渡ってできるトレンドなどでも
結局は「流れが出来ている」ということには変わりなく

流れができれば、その流れを作った原因が何であろうと
どうしてもこういったポイントには常に意識されてきてるんですよ。

なので、いつの時代になっても、勿論これから先も
常にトレーダー達が意識し続けていくであろうポイントだと思ってます。

だからこそ、このラインも
しっかり引けるようになって実践に活かしてってくださいね^^

では、次のケースです。

③、「ネック」を意識してラインを引く

相場の流れや動き方に対してのラインの引き方について
いまのところ、2つのケースを説明してきましたが
とりあえず、ここまでは付いてこれてますかね？^^

内容的にはあまり難しくないと思いますが
これから、徐々により具体的に細かくなっていくので
しっかり付いてきてくださいね。

さて、次のケースは「**ネック**」を意識したラインの引き方です。

よく、ダブルトップやダブルボトム、三尊（ヘッド&ショルダー）などの
チャートパターンで「**ネックライン**」という言葉聞いたことですかね？

多分、ほとんどの人が知っていると思いますが
「**ネック**」を意識してラインを引く。というのは
その「**ネックライン**」を意識してラインを引くと同義です。

そもそも、「ネックライン」とは？という方に向けて、改めて説明すると

「ネックライン」とは、相場が作り出すチャートパターンでも
主に「**ダブルトップ、ダブルボトム、三尊、逆三尊**」
の首（ネック）の部分に引けるラインのことです。

このネックの部分に引けるラインは、非常に強く強いラインになるとして
相場の世界では有名すぎるくらいのラインなんです
事実、僕から見てもこのラインは本当に意識されやすいです。

じゃあ、なぜ意識されやすいか？というと
偏に「そのチャートパターン自体」が意識されるからなんですよ。

チャートパターン自体が意識される＝そのチャートパターンに引けるラインも意識される

というのは、**必然**なので覚えておいてください。

いいですか？

決して、ラインだけが単体で意識されるのではなく
チャートパターンや流れや動きがあってそれが意識されるから

その結果として、そこに合わせて引けるラインが意識されるんです。

この考え方はもの凄く大事です。

中身の無い、意味のない無駄なラインに
振り回されないためにも、絶対に頭に入れておいてくださいね。

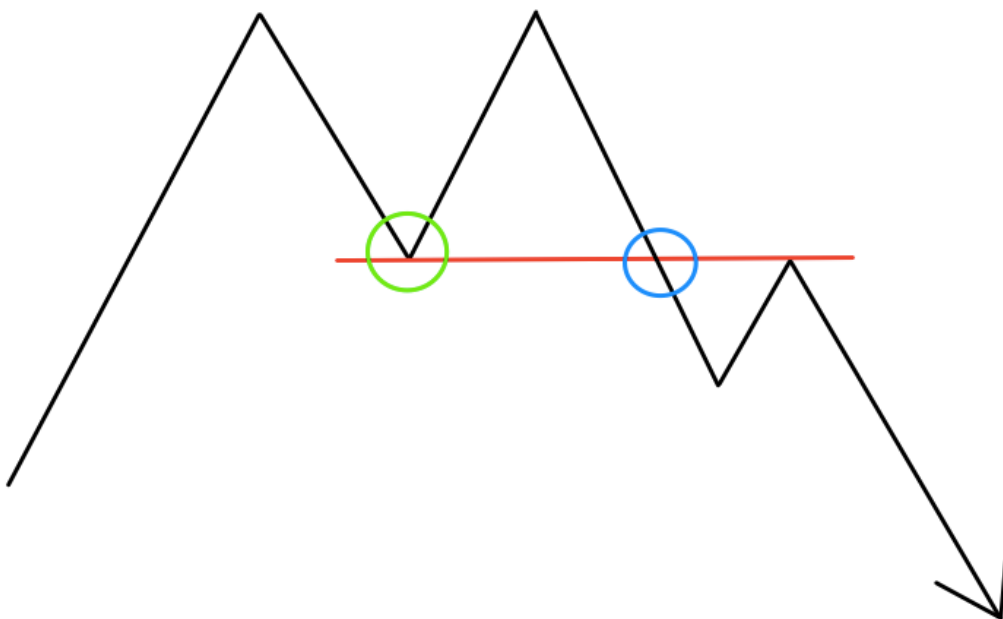
なぜそのラインが意識されるのか？
というのを説明出来るトレーダーはかなり少ないですが

これを読んでもあなたには、ラインが意識されるその「背景」までしっかり理解して
ラインを引けるようになってくださいね。

さて、話を戻しますが
そろそろ「ネックライン」の詳しい説明に移っていきます。

まずは↓の図を見てください

赤ラインを下抜けた時点でダブルトップが完成となり
その時点で「ネック」にラインが引ける。
(青丸のポイント)



これはダブルトップの場合ですが
簡単にネックラインの説明をした図です。

ダブルトップは、赤ラインを下抜けて初めて完成となります。

そして、完成後に緑丸の安値を起点として「ライン」が引ける。
というような理屈で

そこから、その「ネックライン」を使って売りで入るのが
まあセオリー通りというか、世の中では常識と言われているトレード方法です。

ですが、僕はこのダブルトップを見越した上で
MAの絡み方などを見て、もっと上の方で入って利益を大きく取りに行くという
世の中の一般的な入り方とは違うエントリー方法を使ってます 笑

僕の「[エントリーマニュアル](#)」や「[5つの奥義（エントリーパターン）](#)」を
読んでくれた方なら分かると思います。

ちなみにまだこれを読んでないという方は、有料ですが買って絶対に読んでくださいね。
（僕の具体的なエントリーの仕方や考えを記したもので確実に値段以上の価値はあるので^^）

では、次はこのダブルトップに引けるネックラインを
実際のチャートで見ていきましょう↓



白ラインがネックに引けるライン。
つまり、ネックラインになります

何度も言うんですが、このネックラインはダブルトップが完成して初めて効力を発揮します。

なので、まずはしっかりと
このダブルトップの判断ができるようになりましょう。

といっても、形はいたってシンプルなので
結構、誰でも簡単に認識できると思います^^

ちなみに、ダブルボトムも上下が逆になるだけで
理論は同じなのでそちらの説明は割愛して
次は、**三尊**に引けるネックラインを説明していきます。

**三尊に引けるネックラインはダブルトップやダブルボトムに引ける
ネックラインよりもさらに強力になるので
これも、絶対にトレードに活かしてください。**

三尊に引くネックラインも、「三尊」という形を認識できてさえいれば
結構簡単にラインを引けるのですが
その形の認識自体はダブルトップよりも若干難しくなります^^;

というのも、左右二つの高値の部分（肩）と、真ん中の一つ最高値の部分（頭）がどこか？
というのを実際に動いている相場では正確に判断できない人が結構いるんです。

後から相場を観て「三尊」が完成してからなら
「あ〜ここだったな」って分かるんですが

リアルタイムだと、どうしても動いているので目先に動きに惑わされたり、
複数時間足の判断で混乱したりするんですよね^^;

特に、「三尊」はあまり綺麗と言える形でなくても
それを「三尊」として認識できる場合もあるので
そこらへんの、「**三尊と判断できる崩れ具合の許容範囲**」というところも
初心者さんや経験がまだ浅い人にとっては少し難しいかもしれません。

ですが、その辺も三尊に注目して相場を監視していくと

「これくらいの崩れ具合なら、まだ三尊と判断できるな」

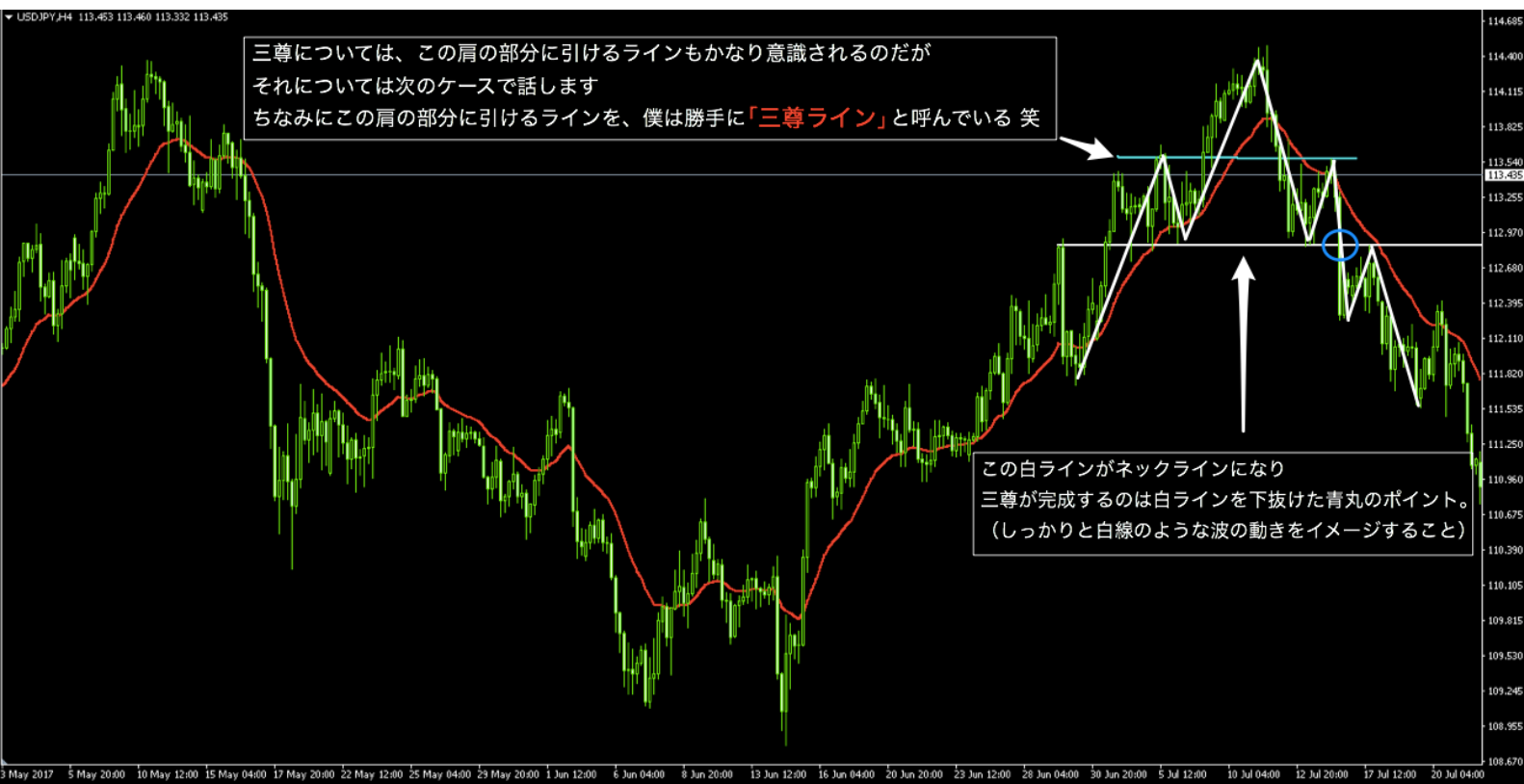
「さすがにここまで崩れると三尊とは言えないな、、、」

というように、形を見極める目が良くなって
絶対に分かるようになります。

なので、三尊の見極めが苦手だなと感じてる方は
特に三尊を中心に相場を観ってってください。

三尊は本当はかなり使える形なので^^

ということで、「三尊」のネックにラインを引くと
どうなるのか？というのを実際のチャートを見ていきましょう↓



ネックラインは白ラインのところになります。

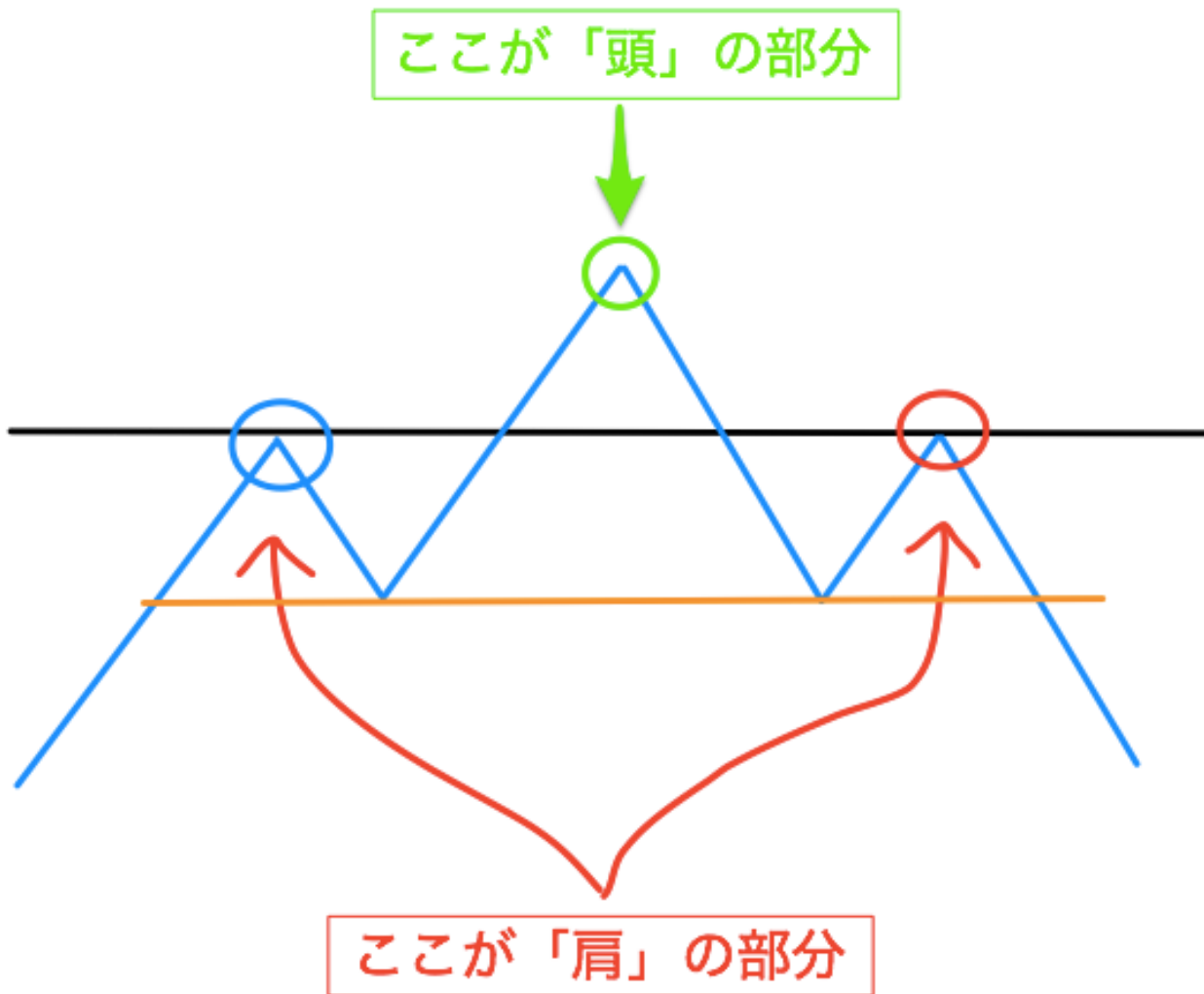
このラインは三尊の形が綺麗であれば綺麗であるほど
意識されやすくなり、より強固なラインになります。

ダブルトップと同じですが、このネックラインを下抜けて初めて三尊が完成したといえます。
(青丸のポイント)

一応、三尊のさらに詳しい説明を図にするとこんな感じになるので

まだ「三尊」自体がよく分からないという人は↓の図を見てください。

※青線が値動きと仮定してください



上の図が三尊の基本的な図なんですが、その過程を説明していきます。

※青線を相場の値動きと仮定してください

【三尊ができる仕組みと過程】

- 1、左から見ていき、まず上げてきてどこかのラインで高値止められる（青丸）
- 2、高値を止められたので少し下げてくる

3、少し下げてきたが、それほど深くは下げずに再び上げていく

(この時点ではまだオレンジのネックラインは引けない)

4、そして、先ほどの1で止められた高値（青丸）を上抜けていく

(この時点で、オレンジラインを引けるがまだネックラインにはならない)

5、最高値（緑丸）を付け、下に切り返し1の高値（青丸）に合わせて引いた黒ラインでサポートされることなく、再びそこを下抜けてくる

6、次は4で引いたオレンジラインに安値を止められて、さらに上に切り返す

7、上に切り返したが、その上げも限定的で再び黒ラインに高値を止められ、また下に切り返す

8、そして、そのまま下げていきオレンジラインを下抜けた時点で「三尊」の完成となる

三尊ができるまでの過程はこうですが、その三尊ができる仕組みも実はそんなに難しくありません。

「買いが弱いから上げきらない」

「売りが弱いから下げきらない」

を繰り返して「三尊」という形を作ってるんですよ。

その「買いが弱くて上げきらない」、「売りが弱くて下げきらない」というのが過程のところに書いてある、止められてる→切り返して逆の方向に行くところに繋がるんです。

なので、本当に**人間の集団心理**っていうのが目に見える形でチャートに現れてるんですよ。

ちなみに、逆三尊も上下が逆になるだけなのですが

三尊の場合ダブルトップ違い、たまにどこに引けばいいのかわからなくなる人がいるので一応紹介しておきますね^^;

こんな感じになります↓



次は白線の波のイメージがないですが、もう分かりますよね^^

白ラインがネックラインで、水色ラインが三尊ラインになります。

このネックラインの引き方も

形さえ認識できればそんなに難しくなく、形さえ認識できれば

後は、今言ったところにラインを引くとそこが自動的に意識されるラインになるので
形の判断が苦手な人は、まずはしっかりと形を認識できるようになってくださいね。

形を早く認識できるようになる方法としては

やはり、リアルタイムの相場で「**どうなったら三尊ができるだろう？**」と常に
形を意識してチャートを見ることです。

そうやって意識して観てるとチャート上に隠れている

「形」を認識できるようになってきます。

よく木や草に同化して外敵から身を守る虫いますよね？

その虫は分かりにくくて、見つけにくいが

「**どこかにはいる**」というのを意識しながら探すのと同じような感覚です 笑

慣れてくると、それらを意識しなくても

チャート上にハッキリと鮮明に浮かび上がってきて

まるで同化していない虫のように、どこにどの形があるか一瞬で分かるようになります。

なので、このようにして少しずつでもいいので

しかし着実に上の図やチャートの形を参考に「**正しい形の認識**」を
できるようになっていってくださいね^^

ちなみに、汚い形は覚えなくてくださいね 笑

汚い形を正しいと思い込んで癖がついてしまうと大変なので、、、
まずは、正しい形の認識からです。

「もう形が認識できる！」という人は、後はネックラインを引いて

それをトレードに活かすだけなので

そのラインをもとに「[エントリーマニュアル](#)」に書かれている

「**ゾーンを分ける作業**」や「**具体的なエントリーの仕方**」をマスターしてください^^

では次のケースに移っていきますね。

次はネックラインとは別なんだけど

「三尊」の肩部分を意識したラインの引き方を説明していきます。

といっても、これは先ほど少しだけ話した「三尊ライン」のことで
度々、ブログやメール講座でも出てくるので知ってる人は多いかもしれませんが
これもしっかり、意識されて強いラインになるので説明していきますね^^

④、「三尊」を意識してラインを引く

まず、「三尊」を意識してラインを引く。というのは
どういうことかというと

三尊の形を見越して、三尊完成前に
両肩の部分に合わせてラインを引くということです。

つまり、僕が「三尊ライン」と呼んでるものですね 笑

この「三尊ライン」のポイントとしては
「**三尊完成前に引く**」というところなんです
こうなると、当然「**なぜ、三尊完成前に引くの？**」という
疑問が出てくるんじゃないですかね？^^

簡単にいうと、「勝ちやすいエントリーの仕方」に繋がってくるんですが
これは「**5つの奥義**」の方でしっかり説明してるので、是非そちらを見てください。

今回はあくまで、「意識されるラインの引き方」に焦点を当ててるので
具体的なエントリー方法などはとりあえず置いておきます^^;

では、「三尊ライン」の具体的な引き方や引く場所について説明していきます。
先ほどのネックラインのところでも少し出てきましたが
↓のチャートをご覧ください。



黄丸の肩部分に合わせて引いた白ラインが、**三尊ライン**です。

この三尊ラインも当然、かなり意識されやすいラインになります。

さきほど、この三尊ラインは完成前に引く
つまり、三尊が完成してから引くのでは遅いと言いますが

それでは、この三尊ラインはいつ引けるのか？
相場どうなって初めて引けるのか？というのを時系列で見ていきましょう。

まずは↓のチャートを見てください。

EURUSD:M30 1.17318 1.17331 1.17313 1.17320

分かりやすくために先ほどのチャートの一つ下位の足。

まだ、この時点では上げてきているだけなので「三尊ライン」は引けない。
三尊の「頭」の部分も作っていないので、とりあえず下げてくるのを待つ。



この時点では、まだ上げてきているだけなので
当然「三尊ライン」は引けません。

なので、まずは三尊の「頭」の部分ができるのを待ちます。

当たり前のことですが、「頭」が出来るには
一度下げてきてしっかりと「ここが最高値だ」というのを確定させなければいけません。

現時点では、まさに上げている途中になるので
ここから、まだ上に伸びていく可能性もあり
ここが最高値とは判断できません。

で、そこから時間が経ったチャートが↓の画像です。



その後、高値を付けて下げてきましたね^^

ですが、まだここが「頭」と断定するには早いです。

なぜなら、画像にも書いてある通り

「前回の高値に引いた白ラインでサポートされて、上げていく場合があるから」なんですよ

そうなれば、上げの流れが続行なので

赤丸の高値は「頭」とは言えなくなりますよね^^;

じゃあ、どうなれば「頭」が完成するのか？ということですが

これは、「**白ラインを下抜けたら**」です。

白ラインを下抜けると「頭」の部分が完成するのと同時に

右肩の部分ができる可能性も出てくるので、その時点で初めて三尊の形が見えてくるんですよ。

なので、この時点で見なければいけないのは白ラインで

「跳ね返されるのか？はたまた「跳ね返されず、下抜けていくのか？」

というところになります。

で、その後はというと↓



白ラインでサポートされることなく、下抜けてきましたね。

なので、ここで初めて「頭」が完成したと言えます。

こうなれば、先ほどと比べて「左肩」も意識されやすくなるので

チャートが自ら「左肩」があるからという理由で「右肩」を作りに行く場合も少なくないです。

じゃあ、「右肩」はどうなればできるのかというと

次は白ラインでレジスタンスされたら、つまり上に行くのを止められて

「ネックライン」を下抜けて初めて「右肩」が完成になり

ひいては、「右肩が完成」＝「三尊が完成」ということになるんですよね^^

↓のチャートはその後の相場です。



ここで一つあれ？？って思うことはありませんか？

さっきは「三尊が完成してからだと入るのが遅い」って言ってたのに、、、

そうなんです。

「右肩が完成した」ということは同時に「三尊が完成した」ということなので
この三尊ラインを使ってエントリーをしていこう！としたときに
右肩の完成を待つのも遅いということになるんですね。

要は、右肩の完成が三尊の完成に繋がるんだから
その右肩の完成を見越して三尊ラインからのエントリーを考えなければいけないんです。

となれば、エントリーをするべきは↓のチャートの黄丸付近になりますよね^^



何度も言うんですが、あくまで三尊ラインを使ってエントリーをしようと考えた時に三尊が完成してからでは、既に手遅れだから完成する前に、完成を見越して三尊ラインからエントリーをしなくちゃいけない。

ということになります。

それが、黄丸のポイントだということです^^

ちなみに、画像にも書いてありますが

③、「**ネックラインを意識してラインを引く**」のところでも話したようにネックラインも当然意識されやすいラインになるのでこのネックラインからエントリーを仕掛けていくというのも全然OKです。

今回は三尊ラインの引き方やその使い方を説明したというだけにすぎないので、そこはお忘れなく 笑

ちなみに、逆三尊の場合も今までと同じように上下を逆にするだけです^^

では、次のパターンに移っていきますね。

⑤、「一度抜けたライン」を再利用する

次は、「一度抜けたライン」を再利用する。というパターンなんですが
これはどういうことかという、、、

例えば、上げの流れがあった場合に通常であれば
どこかのラインでサポートされてから再び上げていくところを狙う。
というのが基本の狙い方になりますよね。

ですが、今回のケースでは注目するポイントが
そのラインがサポートにならずそのまま下抜けていった場合なんです。

普通だとラインがサポートされず下抜けていった時点で
「サポートされなかった⇒意識されていない⇒そのラインはもう機能しない」
と考えて、もうそのラインを意識しなくなる人が多いかな？と思うんですが
実は、まだそのラインは**強く機能する可能性を秘めてる**んですよ。

それが、今回のケースで話す「一度抜けたライン」なんです。

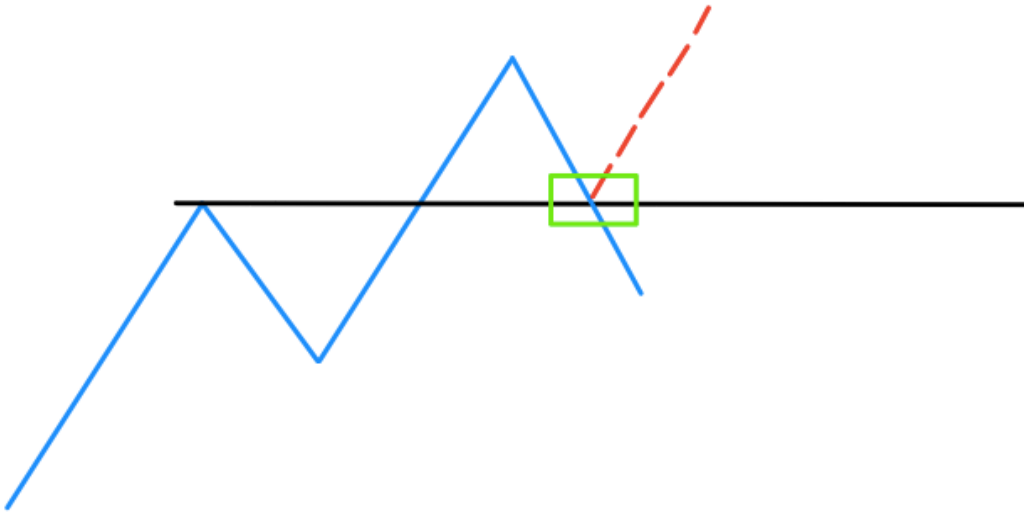
要は、「**ラインが一旦は機能しなくなっても、その後機能する可能性がある**」
ということですね。

じゃあ、相場がどう動いたらその「一度抜けたライン」が意識されやすくなるのか？
ということなんですが、図を使って時系列で説明していきます。

まずは、↓の図を見てください

【例えば、上げてきている相場があった場合】

緑枠のところでサポートされて上げていくというセオリー通りの赤点線の動きにはならず
黒ラインを下抜けてきたとする、、、
サポートされず下抜けてきたので、緑枠のところではこの黒ラインは機能していないということになる。
が、ここではまだ「このラインは機能しないな〜」からといって
この黒ラインを消したりしたり、意識の外に外すのはまだ早い。



こんな感じで、上げの場合だと
緑枠でサポートされてから上げていく赤点線の動きがセオリーになるんですが

そのセオリー通りの動きにならず
黒ラインのサポートを下抜けたところです（青線のような動きが相場の動きを表している）

つまり、これが「一度抜けたライン」となります。

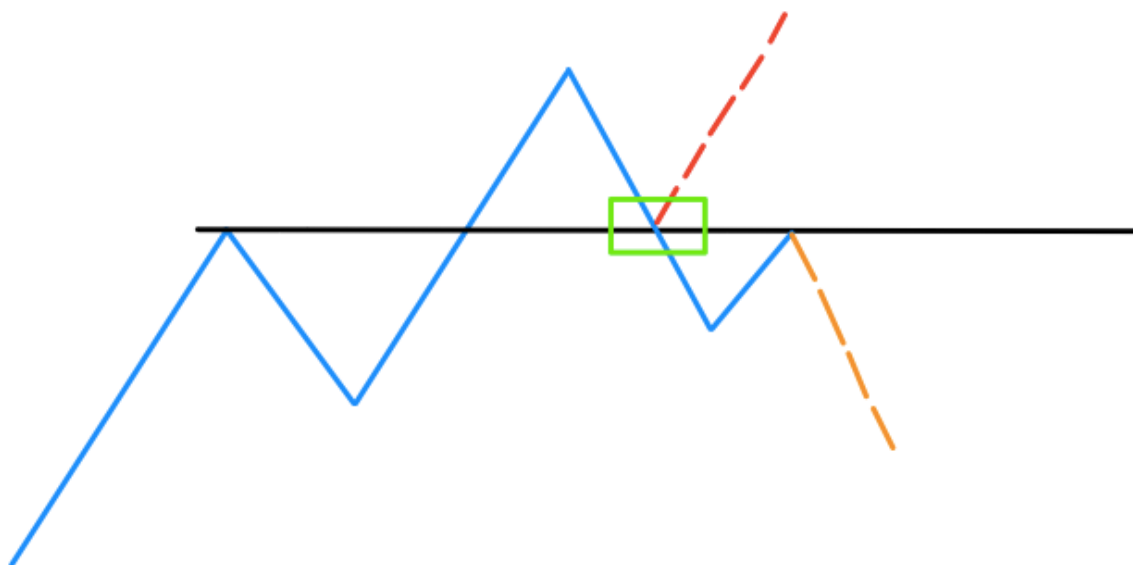
ですが、まだこの時点では「意識されるライン」になりません^^;
ただ、ラインが機能せず抜けてきただけの状態です。

いや、正確に言うと意識はされるラインなんだけど
まだこの状態ではトレードに使えないと言った方が正しいですかね。

どういうことか？というと、、、

次は↓の図を見てください

黒ラインを下抜けてきたら、次はオレンジ点線のような下げていく動きを狙えるか！？
と思いきや、この動きは狙えない。
なぜなら、先ほどの図にも書いてある通り現在は上げの流れが出ている（買いゾーン）
という前提で話しているから。
仮に、下げの流れが出ている（売りゾーン）という場合は問題なく狙っていける。



「意識はされるけど、トレードに使えないライン」とはこういうことです。

先ほどの最初の図にも書いてある通りで、
上げの流れが出ている（買いゾーン）から、ここからオレンジ点線のような
下げていく動きは狙えないというわけですね。

基本ですね^^;

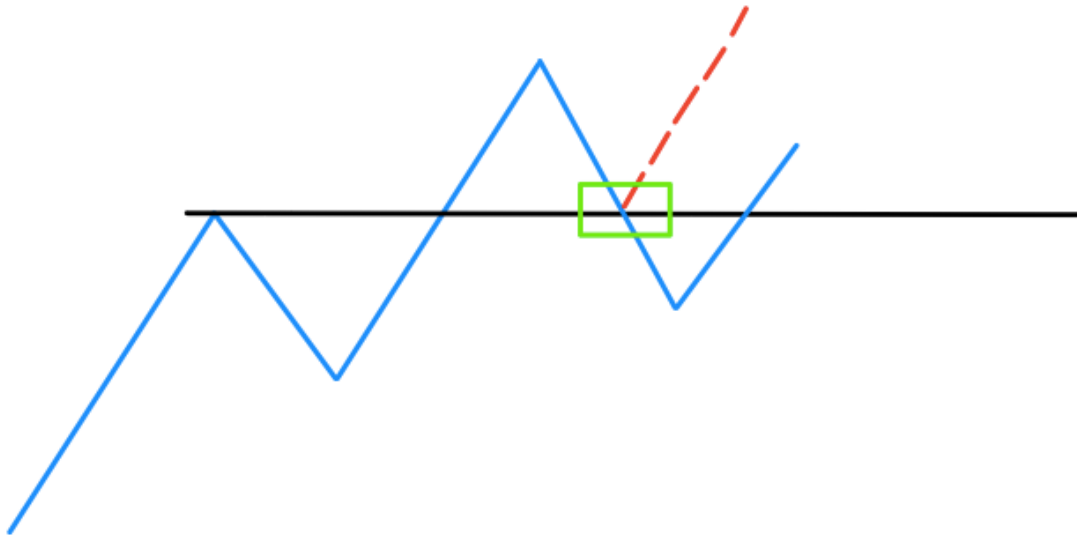
ちなみに、これが下目線（売りゾーン）だった場合は問題なく狙っていただけます。

では、いよいよ

どうなれば、「一度抜けたラインが、意識されてなおかつトレードに使えるライン」
になるのか？

という肝心の部分を説明していくので
次は↓の図を見てください

黒ラインをレジスタンスにして下げていくのではなく、「**黒ラインを上抜けてくる**」という事実が重要。
黒ラインを上抜けてきて、初めてこの「一度抜けたライン」が意識されやすくなり
さらにそれがトレードに使えるラインとなる。



「一度抜けたライン」はこういう青線のような動きになって
初めて意識されやすいラインになります。

じゃあ、なぜこの「一度抜けたライン」が意識されやすくなるのか？
というのを説明すると

単純に「**黒ラインをレジスタンスにして下げていけなかった**」
という紛れもない事実があるからなんですよ。

ラインってそもそも
サポートされなかったらレジスタンスになり
レジスタンスされなかったらサポートになるというのがセオリーなんです。

なので、その**ライン本来の性質（セオリー）**を考えると
黒ラインでレジスタンスされて下げていかず、逆に上抜けてきたんだから

「**レジスタンスされない⇒だから、次は同じラインをサポートに使って上を狙っていく**」
という思考や行動が正しいんです。

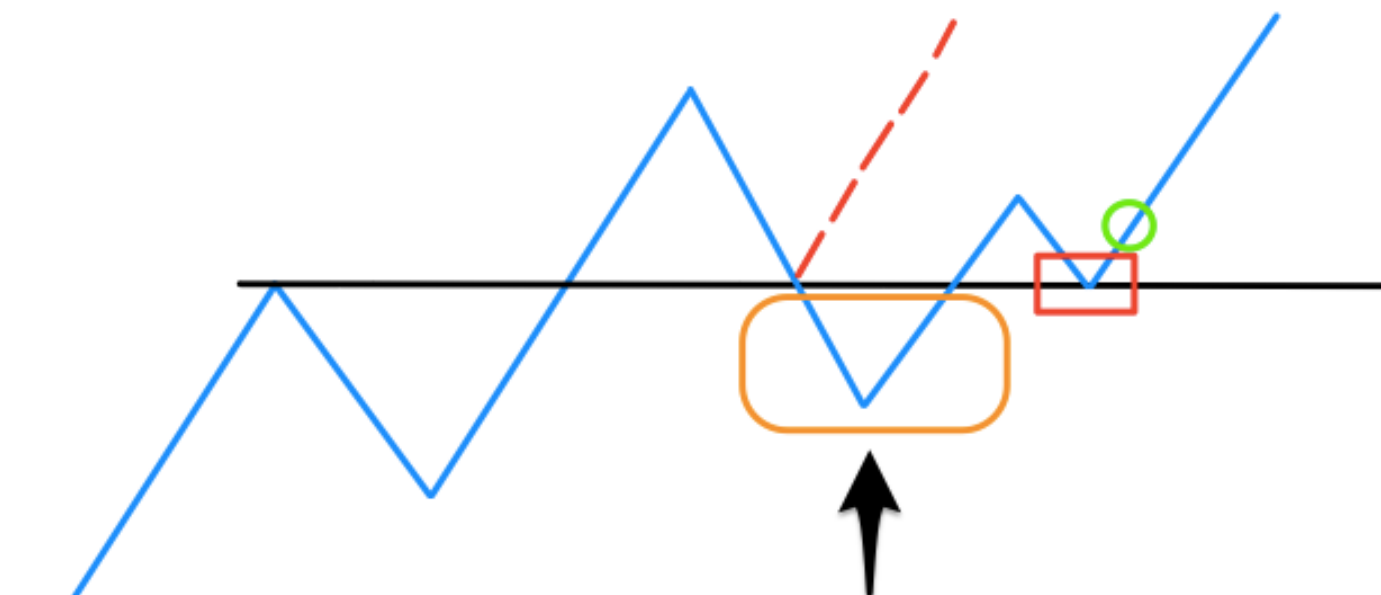
相場に起こった事実（例えば、ラインに止められてそれ以上は上に行けないなど）
というのは、いわば世界中のトレーダーが作り出した「多数決の結果」なんですよ。

なので、その結果に従うのは絶対に「正しい視点」だし
やっぱりその正しい視点は世界中のトレーダーが意識してるんです。

上の図の黒ラインもそういった事実ありきで考え、判断していったるので
当然、どうしても意識されてしまうラインになるということです^^;

で、話を戻しますが
再度黒ライン（一度抜けたライン）を上抜けてきたら
↓の図のような感じでそのラインをサポートに利用して上げていくところを狙っていくんです。

後は、赤枠のところでしっかりとサポートを確認できれば
緑丸で入っていけるポイントとなる。



このオレンジ枠のところで、一度ラインを下抜けて
その後、再度ラインを上抜けている。

ここら辺の入り方はブログやメール講座でも言っている通りですね^^

「一度抜けたライン」を再利用する際に大事なポイント主に2つです。

- ・ラインを一度抜けたという事実
- ・そしてそのラインを再度、上抜けてきたという事実（上げの場合）

絶対にこの「2つの事実」がないと

「意識されてなおかつトレードに使えるライン」にはならないので
ここの確認は忘れずにしてくださいね。

では、これらを踏まえて次は実際のチャートを見ていきましょう。

↓のチャートを見てください



図でも説明した通り

ここで、まず立てるべきシナリオは「この白ラインでサポートされて上げていくかどうか？」
ですね。

ここら辺は、もう何度も説明しなくても分かりますよね^^;

ブログでも何回か話してるんですが

まずは、セオリー通りの動きを狙う

そしてそれが崩れて、初めてセオリーとは違う動きの可能性を考えることができる。

なので、この時点での正しい狙い方は

「白ラインでサポートされてからの上げ」を狙うこと。

になります。

で、その後相場はこんな感じで動きました↓



白ラインを下抜けてきました。

赤丸で白ラインにレジスタンスされて少し下げてますが

青線のように、まだまだ本格的な下げになっていないので

このまま白ラインを再び上抜けてくるのを「待つ」というところになります。

ちなみに、ここでいう「本格的な下げ」というのは

もっと大きな下げのことを言うので、これくらいの下げであれば

「ただ白ラインを下抜けてきただけ」と認識してOKです^^

で、その後の相場です↓



いい感じに上抜けてきましたね^^

先ほども言ったんですが、「一度抜けたライン」は
この時点で、初めて「トレードに使えて、かつ意識されるライン」になります。

なので、後はこの「一度抜けた白ライン」をサポートに利用して
そこから上げていくところを狙うだけです。

- ・ラインを一度抜けたという事実
- ・そしてそのラインを再度、上抜けてきたという事実

という「2つの事実」もこの時点でクリアしてます。

そして、その後の相場はというとこんな感じ↓



その後、しっかりと白ライン（一度抜けたライン）でサポートされて綺麗に上げていきましたね。

エントリーポイントは当然、「白ラインでサポートされたところ」になるので白矢印付近でエントリーすることになりますよね。

この「一度抜けたライン」も他のラインの引き方同様かなり意識されるラインになるので、絶対に覚えておいてくださいね^^

ちなみに、「一度抜けたライン」自体はどこに引けばいいのか？
という疑問もある出てくるかな？と思うので、これも説明すると

基本的にはどこに引いてもOKです。

ですが、「どこでも」と言うのは意識されやすいところはどこでもという意味で単に、意識されるされない関係なくどこにラインを引いてもOKというわけではないのでそこは間違えないでくださいね 笑

意識されるラインというのは
この書で、ここまで話してきたので分かるはずですよ^^
（例えば、三尊ラインやネックラインなど）

ちなみに、今回は「上げの流れの場合」を例に出して説明しましたがこれも、下げの場合は上下が逆になるだけで考え方は全く同じです。

一応軽く説明するので↓のチャートを見てください。



- 1、まず、白ラインでレジスタンスされて下がっていかず
白ラインを上抜ける（青線のような動きにならない）
- 2、かと言って、白ラインがサポートになって上げていくという動きもせず
再度、白ラインを下に抜けてくる（赤線のような動きにならない）
- 3、そうすると、白ラインが俄然意識されやすくなるので
白ラインをレジスタンスにして、黄丸付近でエントリー。

という感じです^^

このラインも他のラインの引き方同様
かなり意識されるので、しっかり使えるようになってくださいね。

次は、もう少し後半で話す予定だったんですが（「ラインの引き方のパターン」がまだあるから）

『実際にどこに「上下を分けるライン」を引くのか？』

『どのラインが「上下を分けるライン」になるのか？』が分からない。

という、質問や悩みをかなり読者さんから頂くので

この「上下を分けるライン」の引き方全般についての説明を先にしようと思います。

1-3、「上下を分けるライン」を引く具体的な場所

強く意識されるラインの引き方は覚えただけ

じゃあ、実際にどのラインが「上下を分けるライン」になるのか？

というのも、かなり重要な部分になりますよね。

また、読者さんからの質問でも

「ラインはある程度引けるんだけど

そのラインのどれが上下を分けるラインになるのかが、なかなか分からない」

という質問をかなり多くいただくので、この部分を詳しく具体的に説明していきます。

ですが、冒頭でも言ったように「ラインの引き方」同様、

「上下を分けるライン」を引く場所もその時々相場によって変化するし

ここに引けば万事OK！というものではない、ということは絶対に忘れないでくださいね。

「上下を分けるライン」も必ずその時々相場に合わせて引いていく。

あくまで、これが前提になってきます。

ちなみに、「上下を分けるライン」自体の説明は

ブログやメール講座や、それこそ僕の「エントリーマニユアル」でも

ずっと話してきているので、ほとんどの方は分かってるかと思いますが

一応、知らないという人のために軽く説明すると

「上下を分けるライン」とはその名の通り、相場の「上の流れ」と「下の流れ」を分けるラインです。

つまり、相場の目線を「上目線」と「下目線」に分けて

今現在の相場はどちらに「優位性」があるか？

というのを判断していくためのものになります。

そして、勝ち続けていくためにはこの「優位性」がある方向に徹底して付いていく。

というのが、もの凄く重要になってくるので

まず、この優位性が判断できないことにはエントリーポイント云々以前の問題です^^;

なので、勝ち続けていくためには優位性を判断をするための「上下を分けるライン」は本当に最重要になってくるんですね。

ということで、まずは「上下を分けるライン」を引く際に絶対に意識しなければいけない基本的な部分から説明していきます。

まず、基本的に絶対に意識しなければならない点としては

「相場本来の流れと、その流れがどこで変わるか？」になります。

上下を分けるライン、つまり相場の目線であり優位性を判断するラインなので
当たり前といえば当たり前ですが、「自分は理解できている！」というつもりの人でも
まだ、本当の意味ではいまいち理解しきれていないなあという人もちらほらいるので
そういう人たちは特にしっかりと読んでいってくださいね。

では、まず「相場本来の流れ」という部分からなんですが
これは、相場全体の流れのことを指します。

↓の画像を見てください。



画像を見ると、全体的に高値安値ともに切り上がってきていて
青矢印の上の方向に流れが傾いているのが分かると思います。

これが、「相場本来の流れ」です。

ここで、注意して欲しいのが
あくまで流れは全体の波の動きから判断する。
ということです。

この部分、実は間違っている人が結構多いです^^;

どうということかという、**相場の流れを判断する際には波の動きを一つ一つ単体で考えてはダメ**なんですよ。

画像を見てもらおうと分かりやすいと思うので

↓の画像を見てください

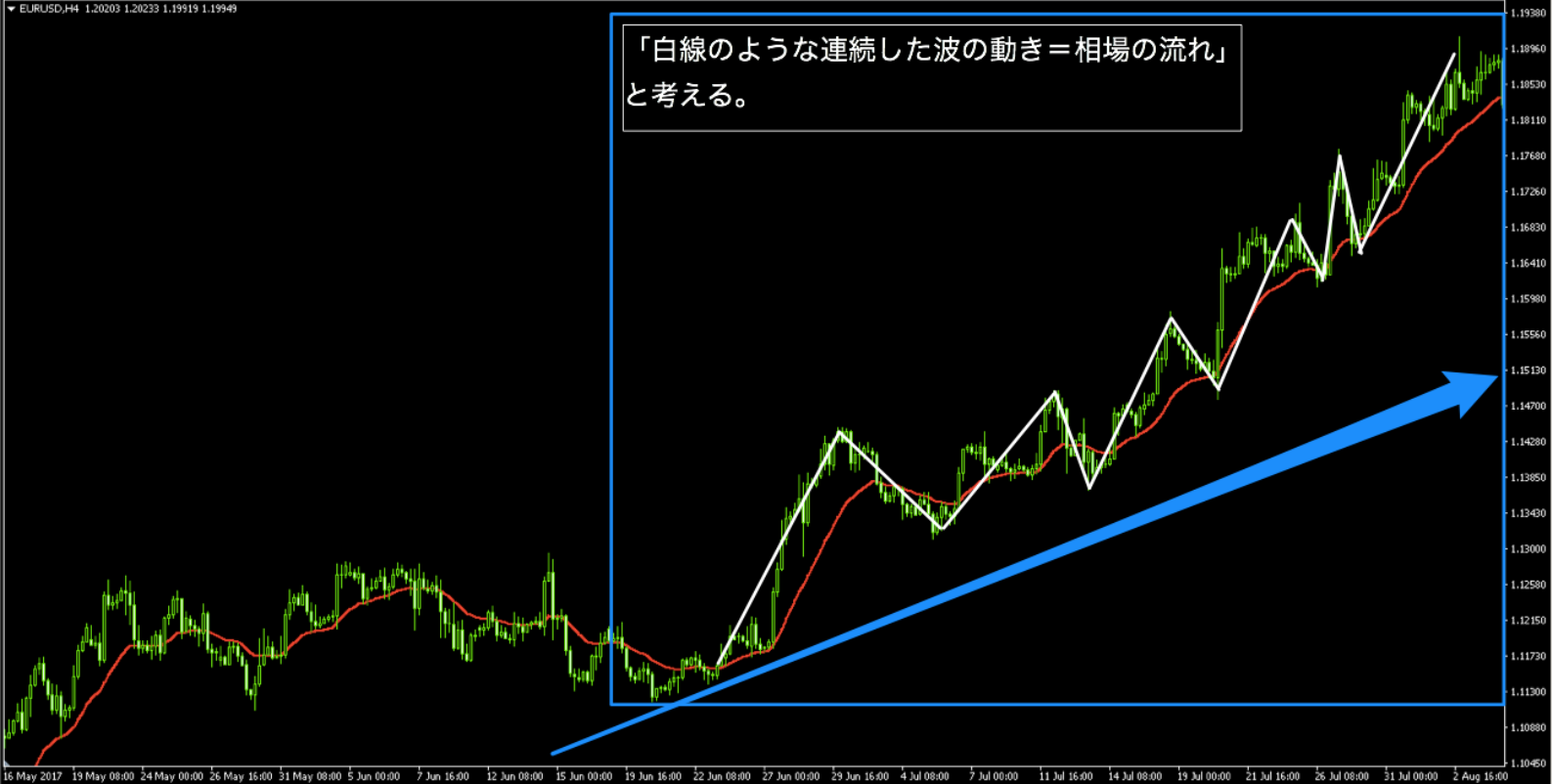


つまり、こういうことです。

赤枠の部分が「一つ一つの上昇している波の動きの部分」なんですが
ここを見て、相場の流れを判断するのではなく
青枠の中の一連の波の動きをまとめて、相場の流れとして捉えてください。

「赤枠のように一つ一つの波の動き＝相場の流れ」というふうに考えて
そこを基準に「上下を分けるライン」を引いてしまうと
頻繁にコロコロと目線が変わったり、細かい値動きに振り回されたりと
いろいろとトレードする上で不都合が生じてしまうので
相場の流れは必ず全体の波の動きから判断してくださいね。

ようは、↓の画像のような感じで考えなきゃダメ。ということ。



青枠の中の白線のような連続した波の動きを「**相場の流れ**」と考えてください。

さきほど、この辺の相場の流れの見方を間違っている人が結構多い。

と言いましたが

この相場の流れの見方は結構分かりやすいというか

波の見方を変えればいいだけなので、相場の流れを間違えて捉えてしまっている人はすぐに修正してくださいね。

で、あとは相場の流れに合わせて「上下を分けるライン」を引いていく上で
もう一つ注意し、意識して観なければいけないポイントがあります。

それは、何かというと

ズバリ「**相場の流れを観る際の波の動き**」です。

これは、ということかという

相場の流れを観て「上下を分けるライン」を引くときに

上の画像の白線のようなイメージで「**波のサイズをある程度一定のスパンで捉える**」
ということをしてもらいたいです。

言い換えると、**細かい波の動きは省いて観る**というふうに捉えてもらってもOKです。

(なお、これはあくまで相場の背景を分析して「上下を分けるライン」を引くときだけで
実際に短期足などを使ってエントリーをするときはそこまで重要ではありません^^;)

じゃあ、「**なぜ波の動きを一定のスパンで捉えなければならないの？**」

ということなんですが

これは、「上下を分けるライン」を常に正しいポイントに引くためです。

そもそも「上下を分けるライン」っていうのは安定したトレードしていく上で土台になる部分なので、これがズれていたり、間違っていたりするのはいくらもまずいです。

このラインがズれていたり、間違っていたりすると
その後のトレードにモロに影響を受けます。（もちろん悪影響）

なので、波の見方というか視点は一定にして
その波の動きに対して「上下を分けるライン」を引かなければいけないんですよね。

とはいえ、これも文章では伝わりづらいと思うので
分かりやすいように画像を使って説明していきますね。

まず、「上下を分けるライン」を引こうと思って
↓のチャートを見た時にどういう波をイメージしますか？



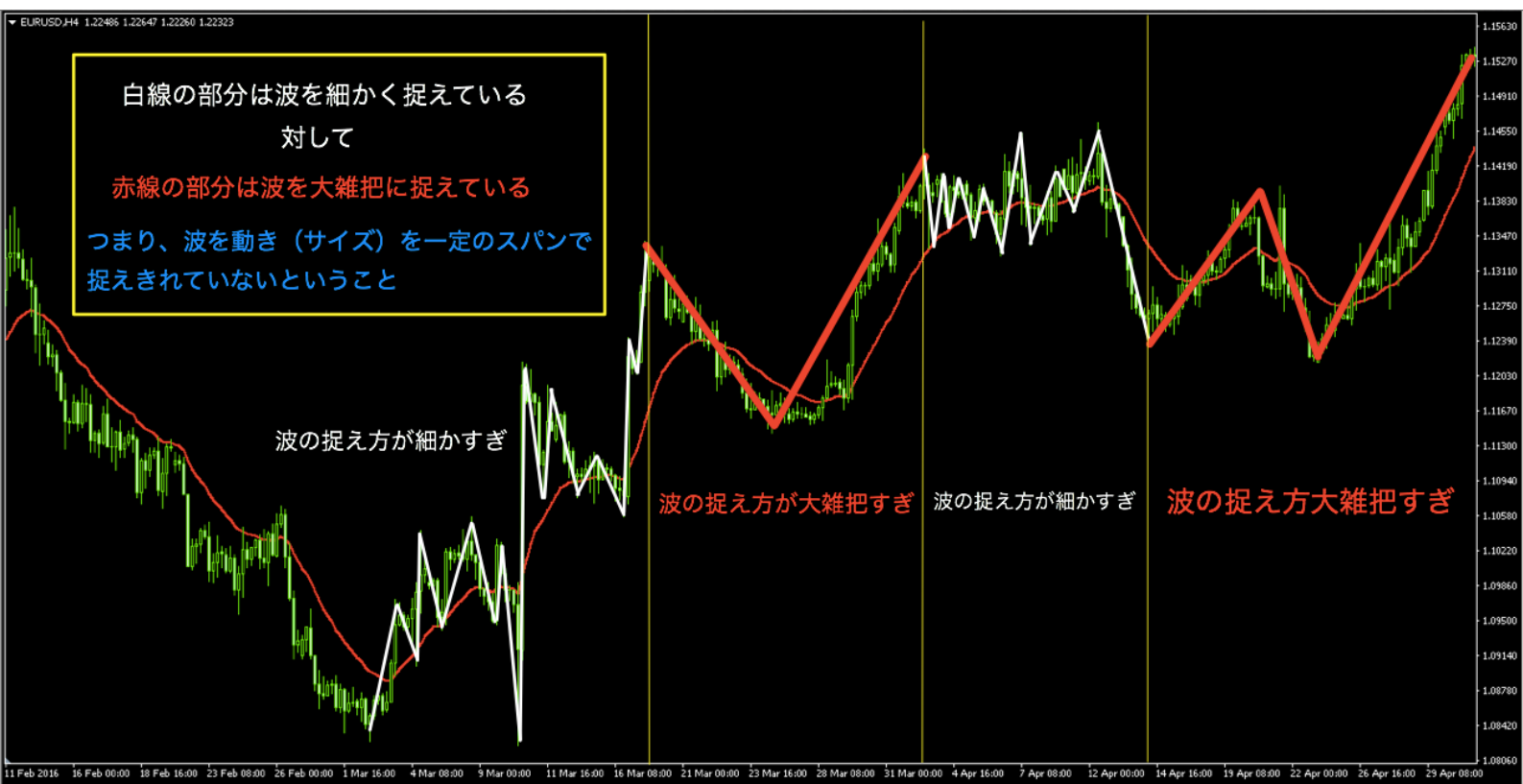
少し考えてみてください。

、 、 、

、 、 、

、、、

もし、↓のような感じで波をイメージしたのならアウトです。



白線の波の捉え方は細かくて、赤線の波の捉え方は大雑把になっており
白線の波の部分と赤線の波の部分とでは、波の動き（サイズ）の捉え方が違うのが分かります。

つまり、「波の動き（サイズ）を一定のスパンで捉えられていない」 んですよな。

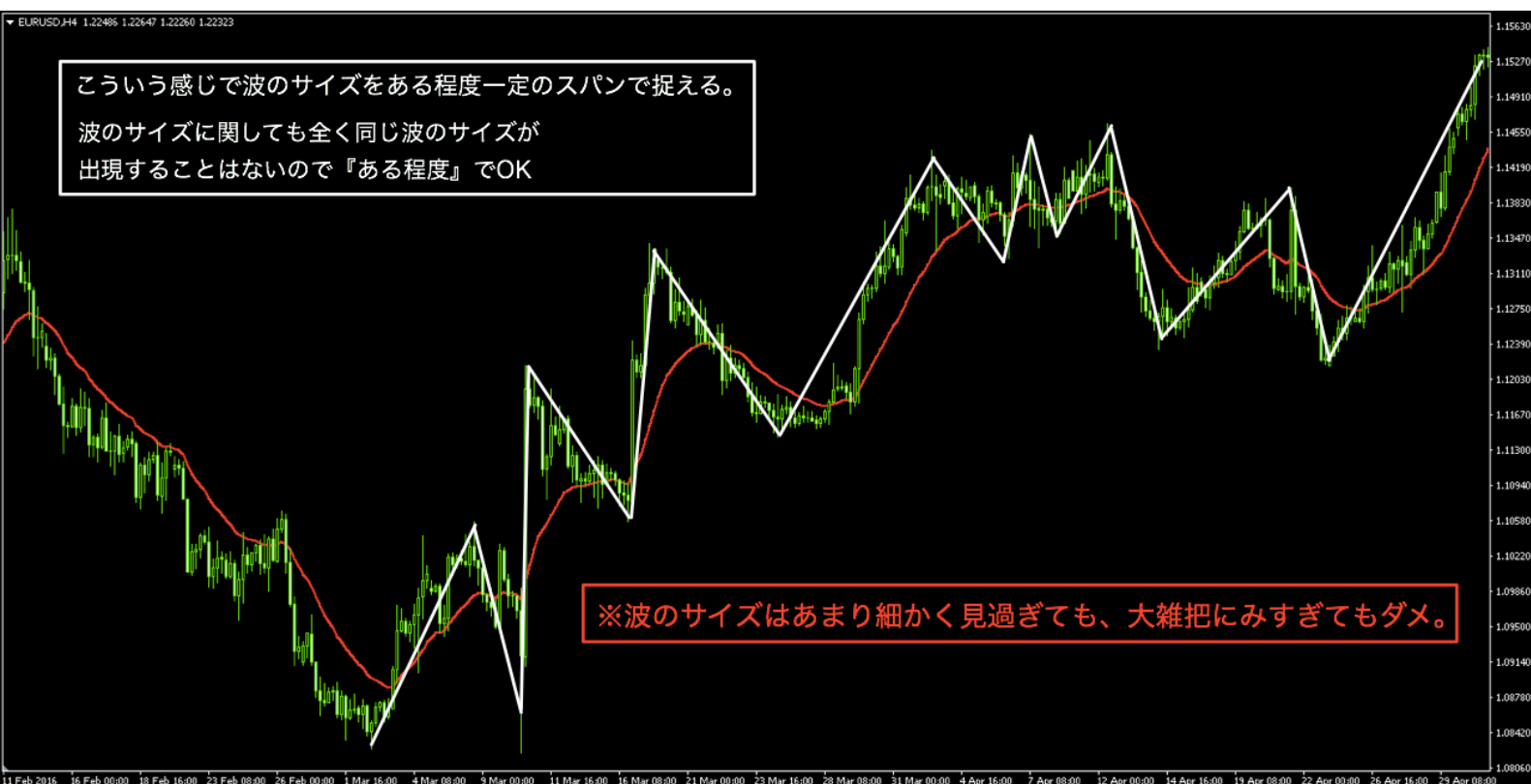
これは、例ですがこれと同じ感じでなくても
波のサイズを一定のスパンで捉えられていない場合は全てアウトです^^;

要は、「波の動きを無視するところ」と「無視してはダメなところ」を選別して
「無視してはダメなところ」だけを「波」として捉えるんです。

上の画像のような波の捉え方だと
細かい波の部分と、大雑把な波の部分がごっちゃになっているので
「どの波を優先させてどの高値、安値を意識してラインを引けばいいのか？」
というのがかなり分かりづらいし、混乱します。

そうすると、当然「上下を分けるライン」も正確に引くことができなくなります^^;

じゃあ、正しい波のサイズを一定のスパンで捉える見方は？ということ
こうなります↓



どうですかね？

これが、「波のサイズを一定スパンで捉える」ということです。

こういう波の見方をすると、高値、安値がはっきり分かんと思いませんか？^^
こういう感じで高値、安値がハッキリ明確に分かると
必然的に、その高値、安値を基準に「上下を分けるライン」も引きやすくなるはずです。

先ほど言った、「波の動きを無視するところ」っていうのが
「細かすぎる波」であったり、「明らかに大きすぎる波」のことで
こういう波は無視して、上のチャート画像の白線のようにちょうどいい具合の波のサイズを
特に意識してもらいたいんです。
(あくまで、『ある程度』でOKです)

その波のサイズが「上下を分けるライン」を引く上で重視しなければいけない波になります。

となると、当然のように「ちょうどいい具合の波のサイズ」が分からない！
という疑問が出てきますよね^^;

これについては、パッとチャートを観たときに判断するもので
特にポイントとなるべきところやコツなどはありません、、、

ここら辺は、ラインの引き方よりもさらに感覚的というか
知識がどうのこうのよりも、ほぼ100パーセント経験でしか身に付けることができないので
とりあえず、いろんなチャートを観まくってください 笑

とはいえ、この波の捉え方も決して難しくはなく
「正確なラインの引き方」や「ラインの強さを見極める」ことなどに比べると
全然簡単なので、毎日チャートを観ていればさほど時間は掛かりません。

というか、この波の捉え方についてはすでに出来ているという人が
ほとんどなので（トレード歴がまだ浅く数ヶ月くらいの人でも比較的できている人が多い）
全くの初心者という人でも1～2ヶ月くらいあれば完璧にできると思います^^

なお、先ほども言いましたが
**この波の捉え方については背景を分析して「上下を分けるライン」を引く時のみ
になり、実際にエントリータイミングを取っていくときなどは
こういう波の捉え方をするのではなく、細かい波の動きもしっかり
観ていったほうがいいので、ここは間違えて解釈しないでくださいね。**

ここは絶対に勘違いしてはいけないので2回言いました^^;

さて、この「1-3」の章に入って今まで説明してきた
「相場全体の流れ」と「波のサイズを一定のスパンで捉える」という項目ですが
この章の冒頭でも言っていた通りこれらをしっかりと意識できていて
初めて、「じゃあ上下を分けるラインはどこに引けるのだろう？」
ということを考えていけるんですよ。

なので、「上下を分けるライン」を正確に引けるようになるためにも
まずはこの部分をしっかり固めていってくださいね。

では、長引いてしまいましたが
いよいよ『**上下を分けるラインを引く具体的な場所**』
を説明していきますね。

ここからは、今までにも増してかなり重要になってくるので
特に集中して一つずつ確実に理解しながら読み進めていってくださいね。

では、実際に「上下を分けるライン」を引く場所は？というと
これは実は、今まで話してきた「**ラインの引き方のパターン**」が
「**上下を分けるライン**」になることが多いんです。

今まで、話してきた「**ラインの引き方のパターン**」は
当然のことながら、強いラインになるのでその強いラインを
先ほど言った、「**相場全体の流れを意識しつつ、波のサイズを一定のスパンで捉える**」
ということ意識しながら「**相場の流れが変わるポイント**」に引くんです。

この辺がごっちゃになってしまうとまずいので
もう一度、整理すると、、、

- 1、まず、相場全体の流れを意識しつつ、波のサイズを一定のスパンで捉える
- 2、そして、それを元に今まで説明してきたラインの引き方のパターンを使って
「**流れが変わるポイント**」を探し出す
- 3、その「**流れが変わるポイント**」が「**上下を分けるライン**」になる

という感じです。

分かりますかね？^^;

じゃあ、これも踏まえて肝心の「**流れが変わるポイント**」はどこになるの？というと

『**上昇している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の安値に引けるライン**』
『**下降している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の高値に引けるライン**』

になることが比較的に多いです。

もちろん、これも相場によって変わるので一概には言えないですが
あくまで傾向としては、やはりこのポイントが「**流れが変わるポイント**」になることが多いです。

なぜ、そういったポイントが流れが変わるポイントになりやすいのか？
ということに関しては、**そのポイントが大衆の「損切り」ポイントになるから**なんですよ。

じゃあなぜ、**流れが変わるポイントが大衆の損切りの場所になるのか？**というと
「大衆の損切りの場所」というのは、
大衆（機関投資家やヘッジファンドといった大口トレーダーも含む）が負けを
認めて、**自分の持っているポジションとは逆の注文を入れなければいけない場所**だから
なんです。

そもそも「損切り」という行為は自分の持っているポジションとは逆の注文を入れて、そのポジションを相殺させて決済することなので例えば自分が「買いポジション」を持っているなら「売りポジション」を新規で持つということなんです。

言い方的には「売りポジション」を持つ前に「買いポジション」を持っているので「新規で注文する（持つ）」とは言いませんが、仕組み的にはそうです^^;

つまり、「大衆の損切りの場所」というのはそれと同時に
「**現在の流れとは逆の新規注文が大量に発生する場所**」ということでもあり
その新規注文が一気に大量に発注されれば、必然的に今まで作ってきた相場の流れが崩れて
新規注文の方向に流れが変わってしまう。
という事象に繋がるんです。

だから、**『流れが変わるポイント＝大衆の損切りの場所』**という方程式が成り立つんです。

では、この辺の「大衆による損切りポイント（流れが変わるポイント）」やそれを含めた上で「上下を分けるライン」はどこに引けるのか？
というのを具体的に実際のチャートと図を使って時系列で説明していきますね。

まずは、↓のチャート画像を見てください。



ユーロドルの4時間足です。
一番右端を現在のレートと仮定してください。

まず、「流れが変わるポイント」を把握した上で
そこに「上下を分けるライン」を引くためには、先ほども言った通り
「相場全体の流れを意識しつつ、波のサイズを一定のスパンで捉える」ということを
しなければいけないんですが、どんな感じになるか分かりますかね？^^

これも、少し自分で考えて見てください。

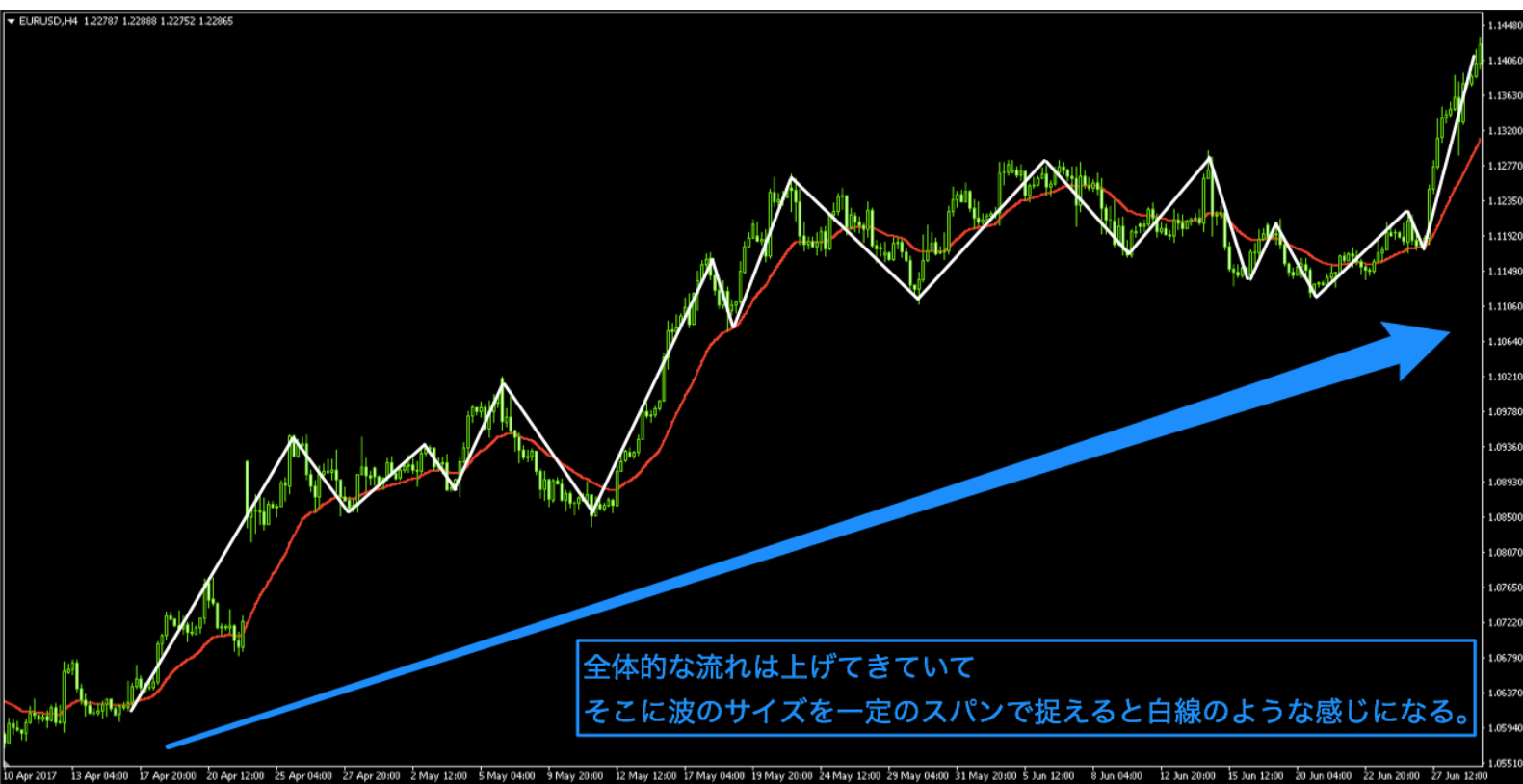
、、、

、、、

、、、

どうですか？だいたいイメージできましたかね？^^

正解はこんな感じです↓



こんな感じで、波の動きはほんとにパッと見で判断してください。

そして、これを踏まえて「流れが変わるポイント」は？ということ
この場所になります↓



この赤ラインのポイントが

「**流れが変わるポイント（大衆の損切りの場所）**」になります。

じゃあ、**なぜこのポイントが「流れが変わるポイント」になるのか？**という

これは先ほど言った、「流れが変わるポイントになりやすい場所」を思い出してください。

『**上昇している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の安値に引けるライン**』

が、流れが変わるポイントになりやすいって言いましたよね^^

なので、それを当てはめるとここに引けるといいうわけなんです。

ちなみに、ここに引くのはダメですよ↓



なぜ、ここに引くのがダメなのかは
何回か言ってきたことなので、分かると思いますが
「目立つ直近の安値」ではないからですね。

この赤ラインもそれなりに支持されていて、意識されていますが
さすがに、下過ぎて「直近の安値」とは言いづらいですね。

ちなみに、ここでいう「直近」とは
もうそのまんまの意味で、「すぐ近く」という意味なので
『直近の安値=すぐ近くの安値』と捉えてください。

そう考えると、「上下を分けるライン」は
やはり、一個前の赤ラインのほうがしっくりきますし
もし、仮にこの赤ラインが「上下を分けるライン」になるのなら
だいぶ下まで下げてこないことには売りでは入れないという理論になるので
そういう観点から見ても、やはり現実的ではないですね。

では、これからいくつか練習問題を出すので
それぞれの相場で、「上下を分けるライン」はどこになるか？を考えてみてください。

今までの事を踏まえて、しっかり相場に当て嵌めれば分かるはずです。

では、まず1つ目です↓



もう一度言いますが、今まで話してきたことを順序立てて考えてくださいね。
そうすれば、自然に「上下を分けるライン」が見えてくるはずですよ。

こういう順序でしたよね↓

『まず、相場全体の流れを意識しつつ、波のサイズを一定のスパンで捉える』



『それを元に、このラインの指南書で説明してきたラインの引き方のパターンを使って
「流れが変わるポイント」を探し出す』



『その流れが変わるポイントというのが
「上昇している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の安値に引けるライン」で
「下降している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の高値に引けるライン」
になりやすい。

これらをしっかり意識してじっくり考えてくださいね。

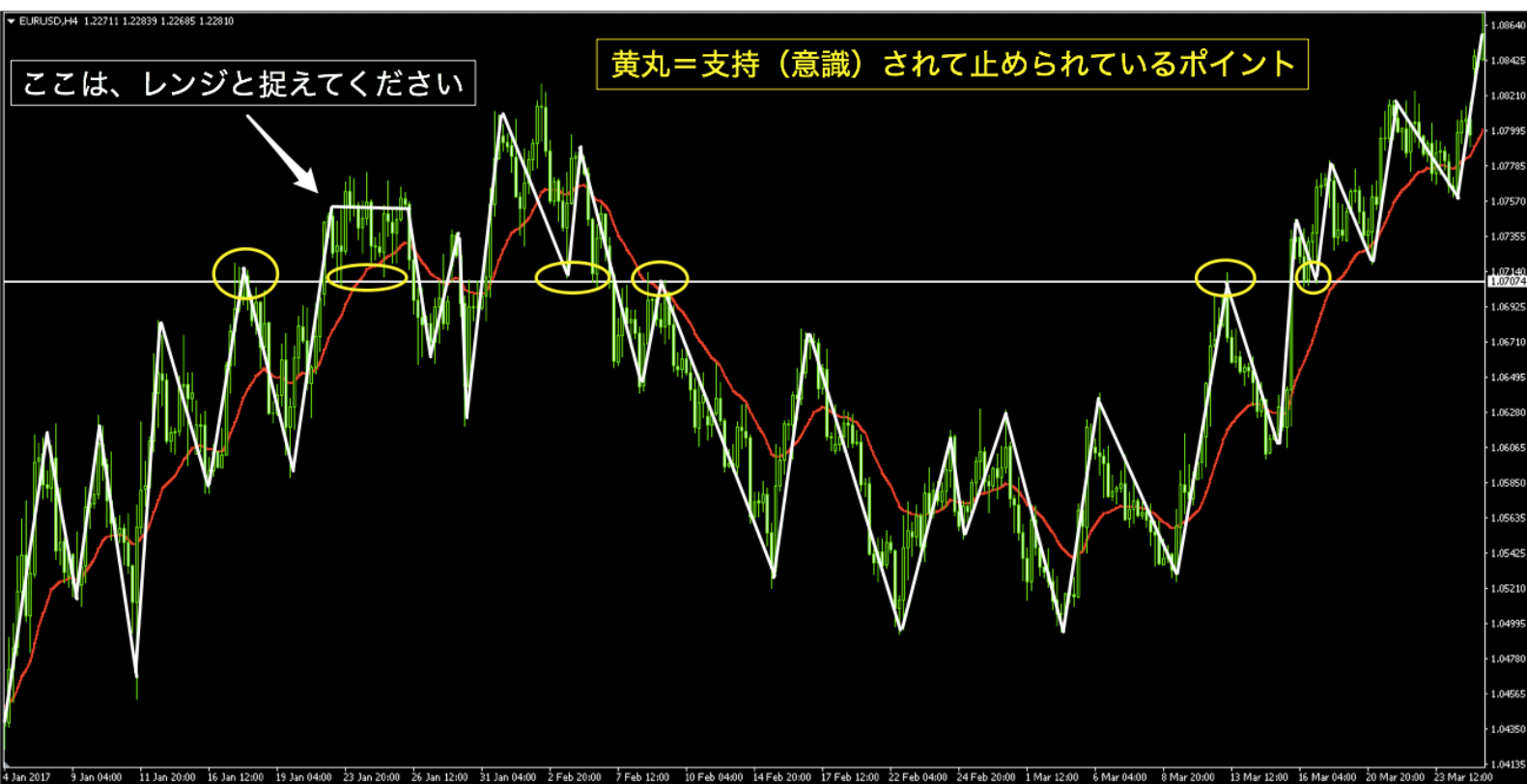
、 、 、

、 、 、

、 、 、

どこが、「上下を分けるライン」が分かりましたか？^^

正解はここになります↓



白ラインが「上下を分けるライン」です。

一つずつ、整理していきますね。

まず、『相場全体の流れを意識し、波のサイズを一定のスパンで捉える』ですがこれは白線のような感じで、難しく考えず本当にぱっと見でOKです。

また、上のチャート画像のように割と細かいレンジ部分は上下動してる波として捉えるのではなく大雑把に「横」と捉えてください。

で、次に『今まで説明してきたラインの引き方のパターンを使って流れが変わるポイントを探す』というステップに移るんですが、今回の場合はそのパターンには当て嵌まりません。

実は、「上下を分けるライン」を相場に当て嵌めて説明していく上で「正確に伝えるのが一番難しいな〜」と思ったのがこの部分です。

順番的には、先ほども話したようにこのように

『ラインの引き方のパターンを使って流れが変わるポイントを探す』というのを先に考えて、その次に

『その流れが変わるポイントというのが
「上昇している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の安値に引けるライン」で
「下降している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の高値に引けるライン」
になりやすい。

ということを考えて、上下を分けるラインを引くと言いました。

これが正しいといことに間違いはありません。

正しいですし、基本的にはこの順序で考えるべきなんですが
相場は100%型に嵌めることができないからこそ
必ずしもそうならず、今回のように
『今まで説明してきたラインの引き方のパターンを使って流れが変わるポイントを探す』
ということが、**当て嵌まらないことも場合もあるんです。**

つまりこういうこと。

まず、初めに優先して考えるのは
『ラインの引き方のパターンを使って流れが変わるポイントを探す』
というステップで、そのポイントが
「上昇している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の安値に引けるライン」
もしくは
「下降している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の高値に引けるライン」
になっていればそれでOKで

逆に、ラインの引き方のパターンを使って流れが変わるポイントを探した結果、
そこが
「上昇している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の安値に引けるライン」
もしくは、
「下降している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の高値に引けるライン」
になっていなければ上下を分けるラインは
「上昇している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の安値に引けるライン」
もしくは、
「下降している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の高値に引けるライン」
に変えなければいけないということ。

ちょっとややこしいですかね^^;

それだったら、初めから、
「上昇している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の安値に引けるライン」
もしくは、
「下降している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の高値に引けるライン」
を「上下を分けるライン」を引く判断基準にすればいいじゃん！

と思うかもしれませんが、そうはいきません。

なぜかという、その判断の仕方を先に持ってくることによって
相場によっては、むしろ複雑になり混乱してしまう場合があるんです。

一つ、例を出すと

「上昇している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の安値に引けるライン」
が分かりにくい場合や、複数引けてしまう場合などはどうでしょう？

こういう場合って必ずと言っていいほど迷った挙句間違ったところに
「上下を分けるライン」を引いてしまう方がいるんです。

ですが、ここに『**ラインの引き方のパターンを使って判断する**』
というステップがあればどうでしょう？

もちろん、100%絶対とは言いませんが
そういった相場に対して正確に「上下を分けるライン」を引ける確率は
間違いなく上がるはずです。

実際、こういう相場（特に波の動きが鈍いといった場合によくある）って意外とあるんです。

なので、そういう相場が来た時に
迷わないように、間違っ「上下を分けるライン」を引いてしまわないように
この『**ラインの引き方のパターンを使って流れが変わるポイントを探す**』
という項目は重要になってくるんですよ。

なので、決して軽視しないようにしてくださいね。

で、話を戻して

その考えを上記のチャートに当てはめて考えると

『ラインの引き方のパターンから判断できるライン＝支持点が多く、かつ目立つ直近の安値に引けるライン』にはならないので、
この場合は、「支持点が多く、かつ目立つ直近の安値に引けるライン」を優先し
そこが正しい「上下を分けるライン」になる。
ということになります。

では、これら全てを踏まえて練習としてもう一問出すので
「上下を分けるライン」はどこに引けるか考えてみてください。

次は、こちら↓



次は、下げの場合です。

下げの場合も、基本的に上げの流れと同じように考え判断してください。

順序は何回も言いますがこうでしたよね↓

『まず、相場全体の流れを意識しつつ、波のサイズを一定のスパンで捉える』



『それを元に、このラインの指南書で説明してきたラインの引き方のパターンを使って
「流れが変わるポイント」を探し出す』



『その流れが変わるポイントというのが
「上昇している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の安値に引けるライン」で
「下降している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の高値に引けるライン」
になりやすい。

、 、 、

、 、 、

、 、 、

それでは、正解です。

「上下を分けるライン」はここになります↓



白ラインが「上下を分けるライン」になります。

今回は波の動きをイメージしたギザギザの白線は書いてませんが
もうだいたいイメージできますよね^^

で、この白ラインが上下を分けるラインになる理由なんですが
『**支持点が多く、かつ目立つ直近の高値に引けるライン**』の場所だから
というのもそうなんです

それともう一つ、今回の場合はその前の段階で考える
『**ラインの引き方のパターンを使って流れが変わるポイントを探し出す**』という
「上下を分けるライン」の基本の引き方に相場がしっかり当て嵌っているパターンになります。

じゃあ、そのラインの引き方のパターンとは？というと
鋭い方はもう気づいてると思いますが

【②、「高値安値を更新した前回の高値安値」を意識してラインを引く】

のところで説明したラインの引き方のパターンを使ってるんですね。

結構、前の方で説明したんですけど覚えてますかね？^^;
忘れたという方は、もう一度上に戻ってしっかり読み返して覚えておいてくださいね。

つまり、もう一度整理すると、、、

まず、**ラインの引き方のパターンを使って流れが変わるポイントにラインを引けた。**
(もちろん、波のサイズを一定のスパンで捉えるということができてる前提で)

その上で、そのラインが

『**支持点が多く、かつ目立つ直近の高値に引けるライン**』の場所にもなる。

だから、この白ラインが上下を分けるラインになるということ。

こういうふうにして、順序立てて考えていくとそこまで難しいものではないですね。

そして、何回も言いますが

あくまで、これは『**基本の考え方**』です。

今回の例題、練習問題は、まずは基本通りに覚えてもらいたいのので

あえて、その基本通りになる相場を選んで出題しましたが、実際の相場には

「**上昇の流れが出ている相場に対して上下を分けるラインが”高値”に引ける**」ことや

「**下降の流れが出ている相場に対して上下を分けるラインが”安値”に引ける**」ことなどもある。

というのは、絶対に忘れないでくださいね。

ここら辺を理解して臨機応変にどんな相場に対しても

「**上下を分けるライン**」を常に正確に引いていくためには

さすがに「**経験**」という部分が必要不可欠になってきますが

いつも言ってるように、本当にまずは**基本ありき**ですからね。

基本があって、初めて臨機応変に対処していけるのであって

まず、基本を知ってしっかり理解しておかなければ、臨機応変に対処しようとしたときに

「**どう臨機応変に対処すればいいんだろう？**」とその対処の仕方も

わからないままどんどん道を外れていってしまうので

とりあえず、まずは基本をしっかり固めてください。

なんだかんだ、まず基本をしっかり習得してから次のステップに進んだ方が

結局近道になるということは、僕自身、身を持って経験してるし

僕の読者さんたちの成長スピードを見ていると、これはハッキリと断言できます。

基本を固めた方が、後々の応用にも生きてきますし

土台がしっかりしてるのでやっぱり強いんです。

この基本の考えに基にしっかりと正しい経験を積んでいくと

自然に臨機応変に対処できるようにもなってきますし、今現在の相場に対して

「**今の相場はどのラインが強いのか？**」

「**どのラインが上下を分けるラインになるか？**」

などの”感覚”が養われてきて

正確な上下を分けるラインを引く場所というのが必ず分かるようになってきます。

なので、その”感覚”をしっかりと掴むためにも

まずは、基本を基に正しい経験を肉付けしていくように積んでいく。

ということが本当に大事になってくるんですね。

正しくラインを引いてるはずなのに、自分の引いてるラインに対して

「ん？正しい場所にラインを引いてるけどなんか違うな、、、」と”違和感”を覚え始めたらしめたものです。

その時が、まさに臨機応変に対応できる”感覚”が身につきつつある時なので

その時は、その”感覚”を決して見逃さず、常にその”感覚”を意識しながら相場を観ていき大切に育てていってくださいね。

それは、自分のトレードスキルが進化しようとしている時です。

さて、これまでは流れがすでに出ている相場に対して

基本の「上下を分けるライン」の引き方や引く場所について話してきましたが

当然、相場というのは流れが出ている時ばかりじゃないですよ^^;

レンジや方向感がないときも当然のことながらあります。

なので、次は「レンジや方向感がない相場」の

上下を分けるラインの引き方や引く場所の説明に移っていきます。

(以下、「レンジ」と「方向感のない相場」は同義とする)

ちなみに、ここでいう「レンジ」とは相場全体に方向感がないことを指し

初めのラインの引き方のパターンのところで説明した

『①、「相場の段」を意識してラインを引く』に出てきた『段』とはまた、少し違う意味になります。

『①、「相場の段」を意識してラインを引く』のところで説明した

『段』というのは、相場が流れを作っている中で一時的に揉み合っている状態のことを指し

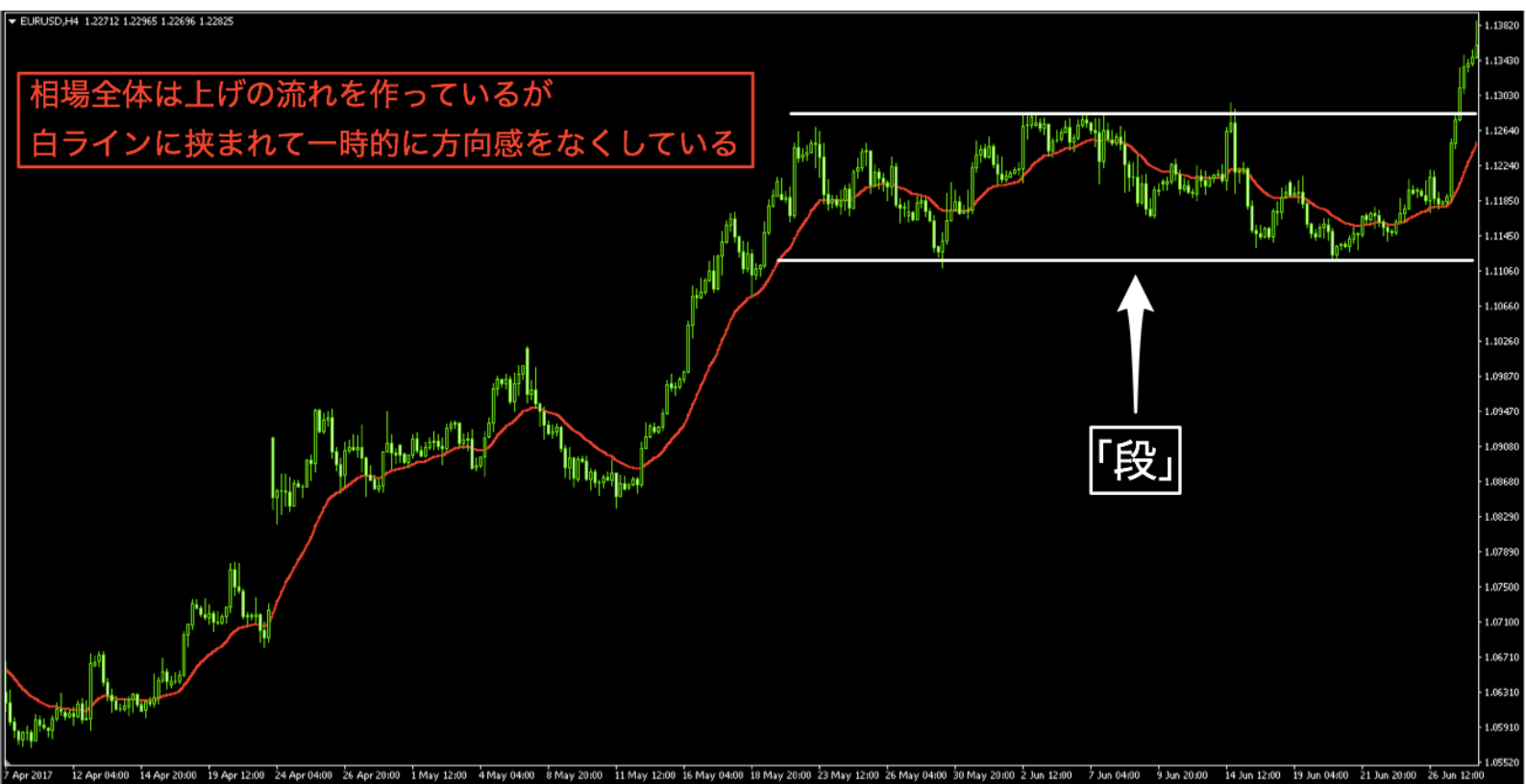
ここでいう、『レンジ』とは先ほども言った通り、

相場の背景全体、つまり日足、4時間足の長期足が全体的に方向感をなくしている大きいレンジのことを指します。

つまりは、『段』というのはこういう感じだったり↓



こういう動き↓だったりするわけです。



どちらも、相場全体的には上げていって流れを作ってるんだけど
白ラインに挟まれていてところで一時的にレンジっぽい動きをしているのが分かります。

これが『段』を作っている状態で、この状態は相場全体の流れがハッキリしているので

先ほども言ったように、ここでいう『レンジ』には該当しません。

じゃあ、具体的にどのような動きが『レンジ』と呼べるのか？
ということについて説明してきたいのですが
その前に、一つ言い忘れてましたことがあります^^;

話は少し遡って、、、
流れが出ている相場に対して「上下を分けるライン」を引く際に
「上下を分けるライン」を引く基本的な順序として、
『ラインの引き方のパターンを使って「流れが変わるポイント」を探し出す』
という項目がありましたよね？

ラインの引き方のパターンを使うので
もちろん、今説明した『①、「相場の段」を意識してラインを引く』という
ラインの引き方のパターンで引いたラインが流れが変わるポイント（上下を分けるライン）に
なる場合も当然あるのですが

その場合、『段』に引いた『上のライン』か『下のライン』のどちらのラインが
上下を分けるラインになるのか？についてです。

これは、ブログの記事でも少し説明したのですが、改めてここで説明していきますね。

結論から言ってしまうと、
これは『段の幅』と『段を抜けた後の動き』によります。

つまり、どういうことか上げの流れが出ている場合で説明すると

「段の幅」が広い→「段の上に引けるライン」が上下を分けるラインになりやすく
「段の幅」が狭い→「段の下に引けるライン」が上下を分けるラインになりやすい。

そして、

「段を抜けた後の伸び幅」が大きい→「段の上に引けるライン」が
「段を抜けた後の伸び幅」が小さい→「段の下に引けるライン」が
上下を分けるラインになることが、比較的多いです。

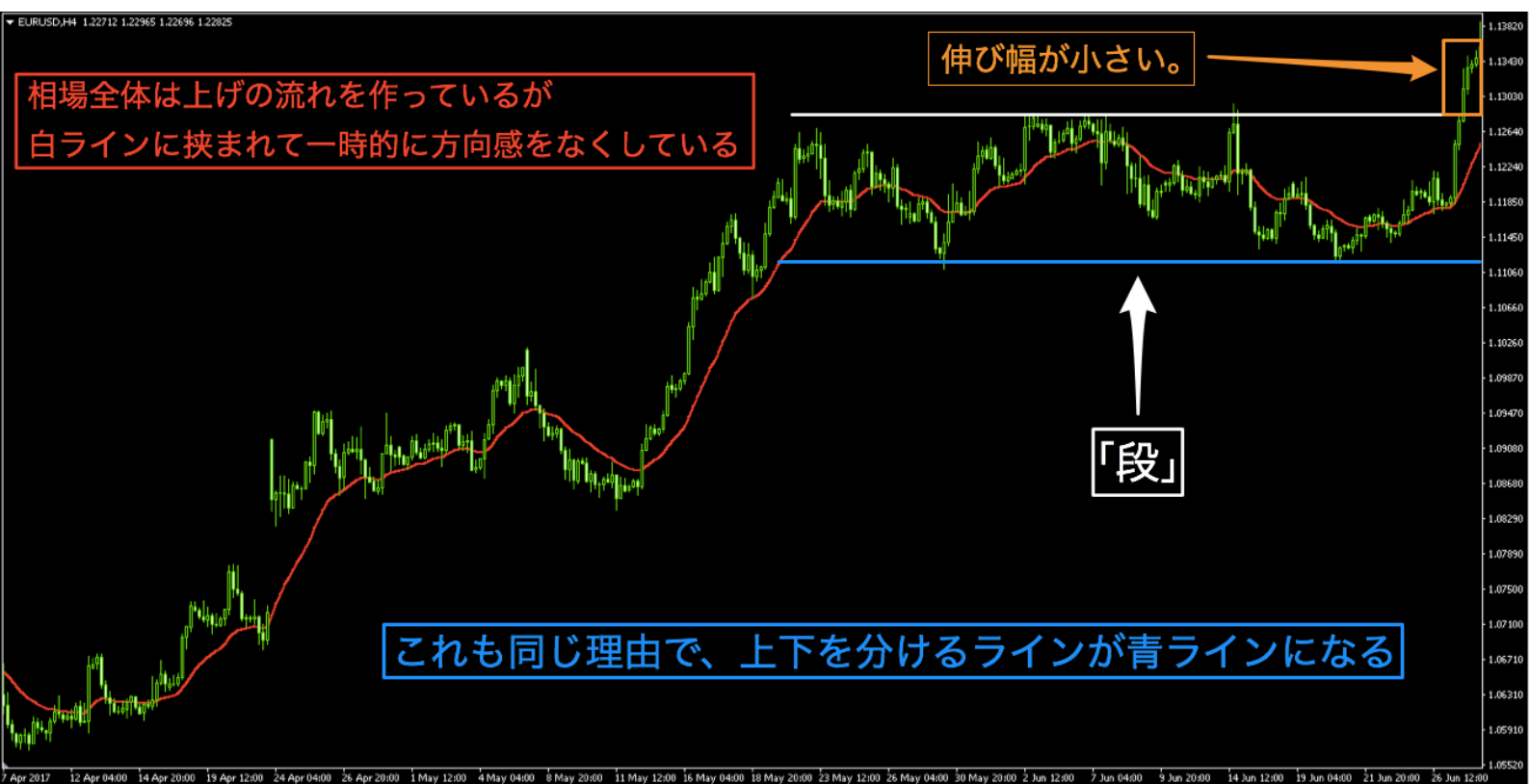
もちろん、これも今までと同じく全ての相場に当てはまることではないですが
あくまで、そういう傾向が多く、こうなることは比較的多いので基本的にはこう考えてください。

先ほど、チャートの画像を使って説明すると
こんな感じです↓



「段の幅」はそれなりに広いけど、抜けた後の伸び幅（オレンジ枠のところ）」が小さいので
「上下を分けるライン」は青ラインのところになり
そして、先ほどの「上下を分けるライン」を引く順序のところでも言ったように
それと同時に「**支持点が多く、かつ目立つ直近の安値に引けるライン**」にもなるので
やはり、「上下を分けるライン」は青ラインで確定します。

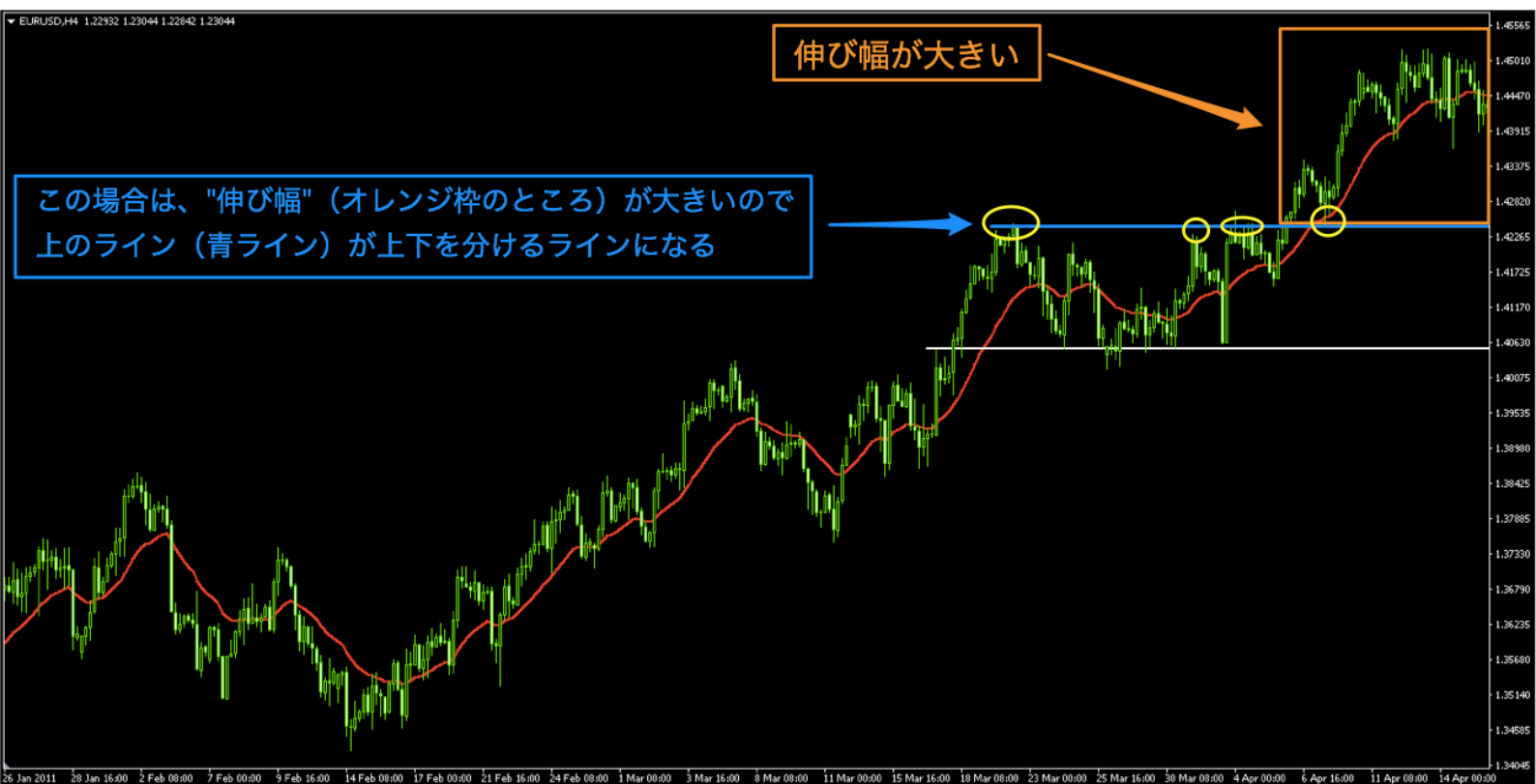
で、もう一つの相場も同じように考えるとこうなります↓



これも、同じ理由で「上下を分けるライン」が青ラインになります。

考え方としてはそんなに難しくないですよ^^

「段を抜けた後の伸び幅」が大きいパターンも
チャート画像を使って説明するとこんな感じになります↓



どうでしょう？

先ほどの伸び幅が小さいチャート画像と比べても
こちらの方が断然伸び幅が大きいということが分かりますよね。
(伸び幅＝オレンジ枠で囲ったところ)

伸び幅も大きく、かつ段の上に引ける青ラインが
「**支持点が多く、目立つ直近の安値に引けるライン**」にもなるので
この青ラインが「上下を分けるライン」になります。
(黄丸が支持点)

ちなみに、下げの流れの場合も
これまでと同じく上下が逆になるだけで考え方は全く同じです。

さて、ここで「**矛盾が生じるんじゃないか？**」
と思った人は勘が良いです 笑

そうなんです。

この「段」を使って上下を分けるラインを引くということを複合的、つまり『**段の幅**』と『**段を抜けた後の伸び幅**』を同時に考えた時、矛盾が生じるパターンが存在するんです。

「段」を使って上下分けるラインを引く組み合わせを整理すると自ずとその矛盾が生じるパターンが浮かび上がってくるので一度整理しましょう。

「段」を使って上下を分けるラインを引く場合の組み合わせとして、以下の4パターンがあります。

「**段の幅**」が広く、「**抜けた後の伸び幅**が**大きい**」
「**段の幅**」が広く、「 // が**小さい**」

「**段の幅**」が狭く、「**抜けた後の伸び幅**が**大きい**」
「**段の幅**」が狭く、「 // が**小さい**」

の4つです。

この4つのパターンの中に矛盾が生じるパターンが**2パターン**あるんですが、どのパターンか分かりますかね？

ここまで、しっかり理解しながら読み進めてきていれば分かるはずですよ。

そう、「**段の幅**」が広く、「**抜けた後の伸び幅**が**小さい**」パターンと
「**段の幅**」が狭く、「**抜けた後の伸び幅**が**大きい**」パターンですよ。

先ほども説明した通り、

「**段の幅**」が広い→「**段の上に引けるライン**」が
「**段の幅**」が狭い→「**段の下に引けるライン**」が

「**段を抜けた後の伸び幅**」が大きい→「**段の上に引けるライン**」が
「**段を抜けた後の伸び幅**」が小さい→「**段の下に引けるライン**」が

それぞれ「上下を分けるライン」になりやすいと言いましたがこれらを同時に考えるとこの2つのパターンは、明らかに**”矛盾”**してしまうんです。

つまり、この2つのパターンの場合に

上下を分けるラインを引こうとすると、どうしても矛盾が生じてしまい

「**段の上にラインを引く**」とも「**段の下にラインを引く**」とも捉えられるので、
『**段の幅**』と『**段を抜けた後の伸び幅**』のどちらを優先して考えればいいのか？

という疑問が生まれてくるはずです。

これについては”段”を作る前の動きによってかなり左右され
ケースバイケースになってくるのですが、
基本的には、「段を抜けた後の伸び幅」よりも、「段の幅」を優先させて考えてください。

つまり、

「段の幅」が広く、「抜けた後の伸び幅が小さい」場合は
「段の幅」が広いのだから、先ほども説明した通り
段の上限に引けるラインが「上下を分けるライン」になり

「段の幅」が狭く、「抜けた後の伸び幅が大きい」場合も同じく
「段の幅」が狭いのだから、段の下限に引けるラインが「上下を分けるライン」になる。

ということです。

結局は、「段の幅」にフォーカスしていれば「上下を分けるライン」は
「上限に引けるのか？それとも下限に引けるのか？は分かる」と思いきや
つい、さっきも言ったように

やはり、この2つの「上下を分けるライン」を引く際に矛盾が生じる

「段の幅」が広く、「抜けた後の伸び幅が小さい」パターンと
「段の幅」が狭く、「抜けた後の伸び幅が大きい」パターンは、

”段”を作る前の動きによってかなり左右され、ケースバイケースになってくるので

相場によっては

「段の幅」が広く、「抜けた後の伸び幅が小さい」場合でも、
“段の下限”に「上下を分けるライン」を引けることもあるし

「段の幅」が狭く、「抜けた後の伸び幅が大きい」場合でも
“段の上限”に「上下を分けるライン」を引けることもある。
ということは、決して忘れないでくださいね。

なので、この辺に関しては

あくまで、「基本的に”段の幅”にフォーカスするものだが“例外”もある」
というような考え方になります。

そして、その”例外”をしっかりと”例外”として捉えられるためには
やはり、経験を積んで相場観を身に付けるしかないのだ
その“例外”をしっかりと判断できるようになるためにも
どんどん経験積んでいてもらいたいと思います。

経験を積むとチャートをパッと見ただけで
自然に、その時その時の相場で「上段”か”下段”どちら引くべきか？」
というのが、必ず分かるようになってきます^^

ということで、話を戻して
いよいよ、次は「段」ではなく
「相場全体がレンジや方向感がない相場」に対して「上下を分けるライン」の
引き方と引く場所について説明していきますね。

”段”と”相場全体がレンジ”の違いについては、先ほど説明した通りで
ここでいう”段”とは「相場の流れの中のいわゆる部分的なレンジ」のことで
“レンジ”は「相場の背景（日足、4時間足）全体に方向感がないこと」でしたよね。

実際のチャートでいうと
こんな感じ↓の相場のことをここでいう”レンジ”として捉えてください。



このチャートを見ると、先ほど説明したい”段”とは違い
白ラインの間で全体的に行ったり来たりしていて、明確な方向感がなく
“レンジ”の動きをしているのが分かります。

で、こういう場合の「上下を分けるライン」の引き方なんですが
こういったレンジの場合は、ある程度流れが出ていて方向感が出ている時の相場とは

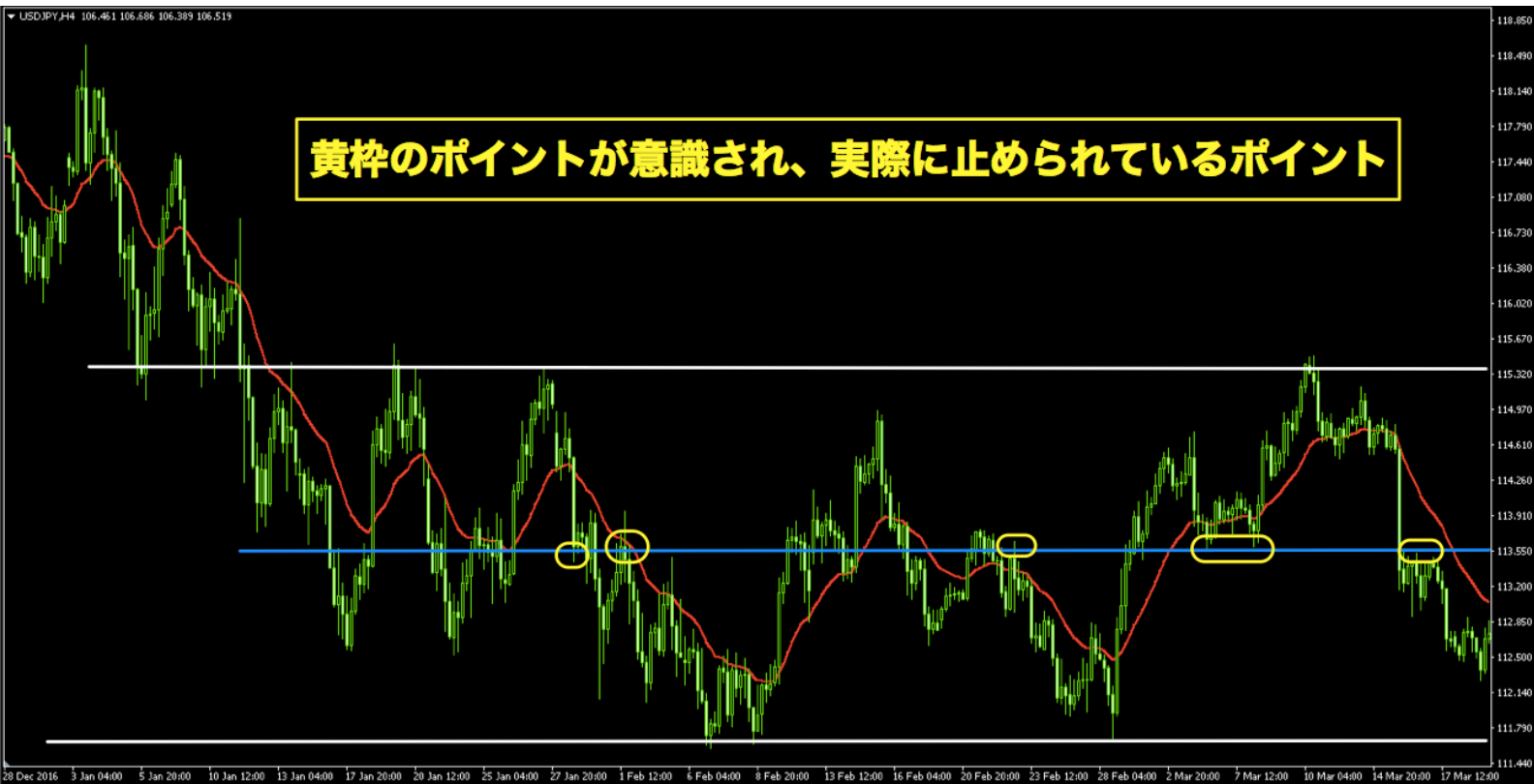
「上下を分けるライン」を引く際の考え方が少し変わってきます。

ですが、実はこれまで説明してきた「流れが出ている相場」に対しての
「上下を分けるライン」の引き方よりも簡単というか
“レンジ”は誰が見ても”レンジ”なので「流れが出ている相場」のときよりも判断しやすいです。

では、その”レンジ”の場合「上下を分けるライン」はどこに引けるのか？というと
基本的には、『レンジのおよそ真ん中辺りで、かつ支持点が多いライン』
が「上下を分けるライン」になる場合が多いです。

もちろん、何回も言っている通り
100%ここに「上下を分けるライン」を引けるということではないのですが
僕の経験上、レンジの場合に関しては8～9割方こういったポイントに
「上下を分けるライン」が引けます。

よって、先ほどの上のチャートでいうと
この部分が「上下を分けるライン」になります↓



青ラインが「上下を分けるライン」なのですが
この、青ラインが白ラインで挟まれた”レンジ”の
およそ真ん中で、かつ支持点が多いポイントになりますよね。

だから、この青ラインが「上下を分けるライン」になるんです。

どうでしょう？ 笑

流れが出ている相場よりも、割と分かりやすいと思います。

では、もう一つ例を出すので

どこに「上下を分けるライン」を引けるのか考えてみてください。



先ほどいった「およそ真ん中で、かつ支持点が多いポイント」
というのを、しっかり意識して探していくとそこまで難しくないはずです。

、 、 、

、 、 、

、 、 、

、 、 、

、 、 、

どこに「上下を分けるライン」が引けるか分かりましたかね？ ^^

正解は、ここになります↓



水色ラインが「およそ真ん中で、かつ支持点が多いポイント」になるので
この水色ラインが「上下を分けるライン」になります。

こういった相場全体の大きいレンジには
真ん中辺りに意識されるラインが存在することが多いので
レンジの場合には、そういったラインが「上下を分けるライン」になるということを
しっかり頭に叩き込んで、覚えておいてくださいね。

レンジに対しての「上下を分けるライン」の引き方については
本当にシンプル、かつ簡単なので、難しく考えすぎないことが大事です^^

ということで、次は
いよいよ、上下を分けラインを引く上で一番難しいであろう
【"上下を分けるライン"を移動させるタイミング】について説明していきます。

この「上下を分けるライン」を移動させるタイミングについても
「どうしても分からない、、、」
「なかなか難しい、、、」
「どこに注目して、どう引き直せばいいの？」など
本当に多くの質問をいただきますので、今回はしっかり説明していきますね。

～「上下を分けるライン」移動させるタイミングや場所について～

さて、「上下を分けるライン」を移動させていくタイミングについてですが
これも「上下分けるライン」自体を引くときと同様
移動させるタイミング、その場所など相場によって本当に変わってくるので
一概に「〇〇のタイミングで△△の場所に移動させればOK」とは言えない
ということは、忘れないでくださいね。

あくまで、『大雑把にこういう相場のときは、どこどこに注目してこういうふうに移動させる』
という”大枠の基本的なセオリー”を説明していくので
まずは、この”セオリー”となる上下を分けるラインの移動のさせ方をしっかり理解した上で
このセオリーに対して経験を積んでいってくださいね。

そうすれば、自然と感覚的にその時々相場に柔軟に対応した
“上下を分けるラインの移動のさせ方”ができるようになります。

大事なのは、この”基本的なセオリー”を土台にしてしっかり経験を積んでいくことなので
ここだけは絶対にブレないでくださいね。

では、いよいよ本題に入っていきますが
まず、上下を分けるラインを移動させるタイミングは大きく分けると
2種類あります。

その2種類というのが

- ①、『目線が変わった時』
- ②、『相場が伸びて、前回の目立つ高値（安値）を大きく更新した時』

の2つになります。

おそらく、どちらもなんとなくはイメージできると思うんですが
頭では分かってるつもりでも、実際の相場に対して常に正確な判断を下そうとすると
案外難しかったりするので、しっかり一つずつ消化しながら読み進めていってくださいね。

ということで、まずは①の『目線が変わった時』に
「上下を分けるライン」を移動する場合から説明していきますね。

『目線が変わった時』というのは
もうそのまんまの意味で、例えば”下目線”の相場であれば「上下を分けるライン」を
上抜けて目線が”下目線”から、”上目線”に変わった時。
ということですね。

で、実はこの『目線が変わった時』というのは

「100%上下を分けるラインが移動する」ということではありません。

こういったところが、「上下を分けるライン」の移動の判断が難しい
と感じるところでもあるんですが

要は、“目線”が変わることによって「上下を分けるライン」が

『**“変わる時”**もあれば、**“変わらない時”**もあるよ』ということ。

これも、“相場によって変わってくる”ので、一概には言えないのですが

“目線”が変わった時に、一度**上下を分けるラインを”リセット”**して

今まで話してきた「上下を分けるライン」を引く場所

つまり、「上昇している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の安値に引けるライン」
はどこになるか？というのを考えれば自ずと答えは見えてくるはずです。

いいですか？

ポイントは“目線”が変わった時に「上下を分けるライン」はどこに移動するのだろう？

と考えるのではなく

上下を分けるライン自体を一度”リセット”して

真っさらな視点でチャートを見て、また新たに「上下分けるライン」はどこに引けるのだろう？

と、いうふうに考えるんです。

分かりやすく、時系列で画像を使って説明していくので

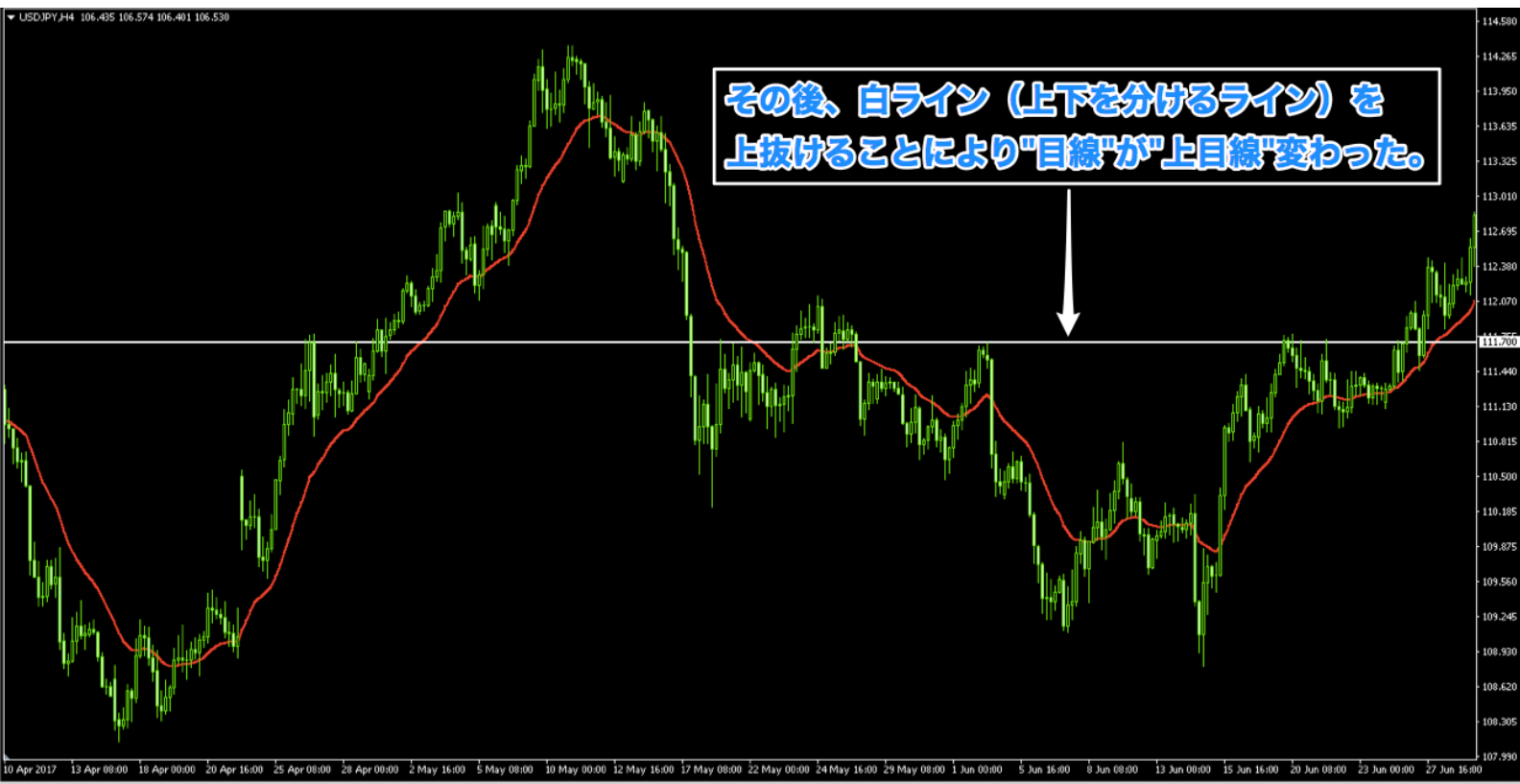
↓のチャートを見てください。

現在、“下目線”で白ラインが「上下を分けるライン」になり

この白ラインを上抜けると目線が“上”に変わるよ～っていう相場です。



で、その後
相場はこういう感じで動きました↓



白ライン（上下を分けるライン）を上抜けてきて”目線”が”下目線”から
“上目線”変わりましたね。

なので、この『**目線が変わった時点**』で
「上下を分けるラインはこの位置のまま変わらないのか？」
「それとも、違う場所に移動するのか？」
「また、移動するとしたらどこになるのか？」
など、考えるのではなく
一度、上下を分けるラインを”リセット”して考えるんです。

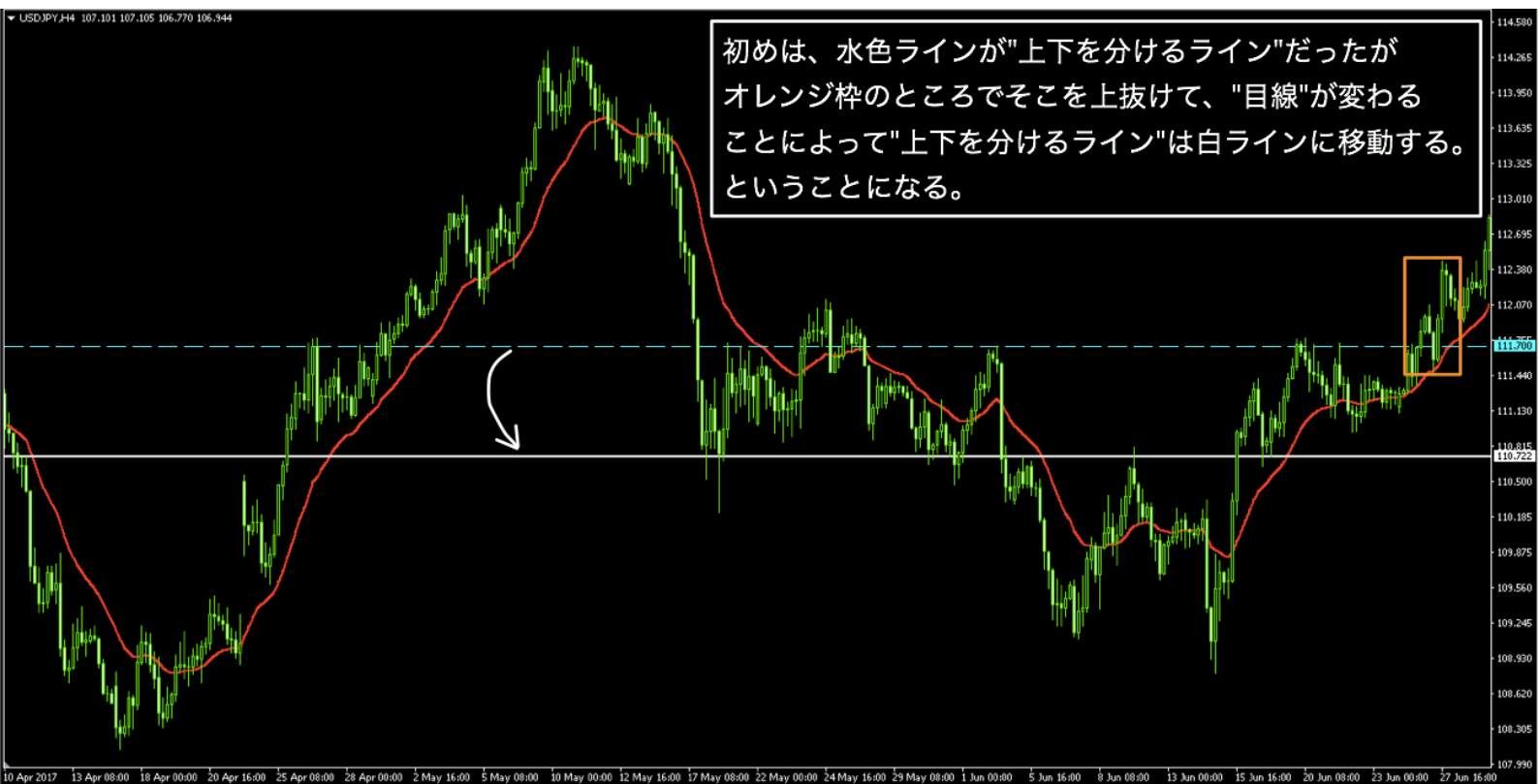
つまりこういうこと↓



こんな、感じで一旦「上下を分けるライン」を消しちゃって全然OKだし
こっち方が、断然分かりやすくなります。

で、この状態で先入観なく相場を見た上で
また新たに「上下を分けるラインはどこになるか？」というのを考えていくんです。

なので、今回の場合で言うと
“目線”が変わったことによって、「上下を分けるライン」は
こういうふうになるということ↓



白ラインが、目線が変わった後の上下を分けるラインになり
今回の場合は、『**結果的に目線が変わった時、上下を分けるラインが変わる相場だった**』
ということです。

(ちなみに、「上下を分けるライン」をリセットした状態から
また新たに上下分けるラインを引く場所はどこになるのか?については
先ほど、今まで説明してきた「上下を分けるライン」の引き方の通りでOKです。)

この目線が変わった時に上下を分けるラインを”一旦リセットする”というのが大事で
目線そのものをリセットして考えることにより
上下を分けるラインは移動するのか?、しないのか?もしっかり分かるようになるはずです。

なので、仮に「上下を分けるライン」が移動しない相場の場合も
「上下を分けるライン」が移動しないというより
“上下を分けるラインを一旦リセットして考える”のだからその結果
『上下を分けるラインが再び同じポイントに引けて、あくまで結果的に移動しなかっただけ』
というような解釈の仕方が正しいです。

一応、「目線が変わっても上下を分けるラインが移動しないパターン」の
例を時系列で説明していくとこういうこと↓



まず、この時の”目線”は”上目線”で白ラインが上下を分けるラインになります。
で、その後相場はこう動きました↓



その後、"上下を分けるライン"である白ラインを下抜けて
目線が"上目線"から"下目線"に変わりましたね。

この時点で、先ほども言った通り

「"上下を分けるライン"は移動するのだろうか？」と考えるのではなく
一旦"リセット"してやります。

こういう感じで↓



で、先ほどと同じ感じで
真っさらな状態で先入観なく相場を見て上で
このラインの指南書で話してきた「**上下を分けるライン**」の引く場所」を基に
「**上下を分けるライン**はどこに引けるだろう？」と考える。

そして、その結果
上下を分けるラインはこの場所になる↓



水色ラインが上下を分けるラインになるんですが
何度も言うように、「**目線が変わっても上下を分けるラインが移動しない場合**」というのは
あくまで**結果**なんですよ。

結果的に、**目線が変わる前と同じ場所に上下を分けるラインが引けた**
というだけのことなんですが、「**単に上下を分けるラインを移動しないまま**」とは
また少し意味が違ってくるので、この考え方は決して間違っって解釈しないでください。

この考え方を間違っって解釈してしまうと

「**目線が変わった時に"上下分けるライン"移動する**」場合

「〇〇の場合は移動させたほうが良いのか？、またその場合どこに移動するか？」などの
判断の仕方が、かなり難しくなって間違っったところに「**上下を分けるライン**」を
引いてしまう可能性が高くなってしまい、そうなれば必然的にトレードに悪影響が出ることは明
白なので、しっかりとこの考え方を**肝**に銘じ定着させてください。

ということで、お次は

「上下を分けるラインを移動させるタイミング」のパターンの2つ目である

②、『相場が伸びて、前回の目立つ高値（安値）を大きく更新した時』

の説明に移っていきますね。

このパターンは、その名の通り

その時の流れに順行して、前回の目立つ高値（安値）を大きく更新した場合に

“目線”自体は変えず、その同じ”目線”のまま「上下を分けるライン」を段階的に移動させていく
という感じなので、ついさっきまで説明していた

①の「目線が変わった時に上下を分けるラインを移動させるパターン」よりも

まず“目線”が変わること自体がなく、必然的に”目線”が変わった後の

“考えること”や”判断”が一切なくなるので

幾分、判断しやすいかなと思います。

では、一つずつ説明していきますね。

まず、おそらく既に分かってるという人も多いかもしれませんが

「相場が伸びて、前回の目立つ高値（安値）を大きく更新した時」

とは具体的にどういう状況なのか？

ということについてですが、これは少し文章では伝えづらいので

実際のチャートで説明するとつまりこういうこと↓



例として、"上目線"の相場の場合で説明しますね。

上のチャート画像を見てもらいたいんですが
現在"上目線"で「上下を分けるライン」は白ラインになります。

で、その中で"オレンジ枠"の部分が目立つ高値になるのですが
ここを大きく上抜けてくるようなら、
「上下を分けるラインが変わる"**可能性**」が出てくるよ」ということ。

そう、"**可能性**"なんです。

今回の『相場が伸びて、前回の目立つ高値（安値）を大きく更新した時』に
「上下を分けるライン」を移動させるパターンについては
目立つ高値（安値）を大きく更新したからといって
必ずしも、上下を分けるラインが変わるということではないんですよ^^;

ここら辺の、判断の仕方
つまり、**「目立つ高値（安値）を大きく更新した場合、
どういう時に上下を分けるラインが移動して、どういう時は移動しないのか？」**
という部分の判断については、唯一少し難しいところかなと思いますが

それでも今まで話してきた**「上下を分けるライン」の引き方の考え方を**
プラスして考えると、しっかり"正解"を導き出せるようになっているので安心してください^^

で、それらも含めて続きを見ていくと
その後、相場はこうなりました↓



その後、上昇しオレンジ枠の”目立つ高値”を上抜けてきたので
先ほども言った通り、ここで「上下を分けるライン」を移動させなければならない
“可能性”が出てきます。

で、ここから肝心になってくるが
「上下を分けるライン」を移動させなければならない”可能性”が出てきたので
「移動させるべきなのか、そうでないかどっちなのか？」というところなんです

この「移動させるのか？させないのか？」の判断の仕方としては
移動させる前の現時点の「上下を分けるライン」が
(つまり、移動させる前の上下を分けるラインなので上のチャートでいうと”白ライン”になる)
今まで話してきた「上下を分けるラインを引く場所」に”まだ当て嵌まっているのかどうか？”
という考えの基、判断していくんです。

なので、ここで今一度「上下を分けるラインの引く場所」を思い出してみてください、、、

こうでしたよね↓

『まず、相場全体の流れを意識しつつ、波のサイズを一定のスパンで捉える』



『それを元に、このラインの指南書で説明してきたラインの引き方のパターンを使って
「流れが変わるポイント」を探し出す』



『その流れが変わるポイントというのが、”上下分けるライン”になりやすく
「上昇している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の”安値”に引けるライン」
「下降している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の”高値”に引けるライン」
になりやすい。

なので、、、

(上目線の場合) 目立つ高値を大きく更新した時
相場があまり変わらず、移動させる前の「上下を分けるライン」が
まだ、これらの「上下を分けるラインの引く場所」に当て嵌まったままの場合は
➡『上下を分けるラインを移動させない』

そして、(上目線の場合) 目立つ高値を大きく更新した時
相場が変わり、移動させる前の「上下を分けるライン」が
これらの「上下を分けるラインの引く場所」に当て嵌らなくなった場合は
➡『上下を分けるラインを移動させる』

というような考え方をしてください。

で、先ほどの例のチャート画像を使った説明に戻りますが
この時点で、相場は確かに目立つ高値（オレンジ枠のところ）を抜けて
伸びていってますが、まだこれくらいじゃこの白ラインが
「上下を分けるラインの引く場所」に当て嵌らなくなるくらい相場が変わった
とは言いづらいので
まだ、ここでは『**上下を分けるラインを移動させない**』ということになります。

ここで、じゃあどうなれば

「**上下を分けるラインの引く場所に当て嵌らなくなるくらい相場が変わった**」と言えるの？
という疑問も当然の如く出てくると思うのですが

これも、やはり相場によりけりなので

「こうなったら、上下を分けるラインの引く場所に当て嵌らなくなるから
上下を分けるラインを変える」
というような明確な定義付けができません^^;

なので、この辺も経験を積んでいき

「**こういうふうに動いたときは、
相場が大きく変わったと言えるから、上下を分けるラインは移動させべきだな**」

「**こういう相場のときは、上下を分けるラインを移動させるほど
まだ相場はそこまで大きく変化していないな**」

というようにして、自分の中で判断できる”感覚”というか、相場観というか
その時々で”柔軟に対応していける能力”を身に付けていってもらいましょう^^;

で、話を戻して

現時点では、目立つ高値を更新したけど、それほど相場が大きく変化したわけでもないから
『**まだ、上下を分けるラインを移動させない**』
つまり、まだ”白ライン”の位置のままということでしたよね。

そして、その後はというところな感じで動きました↓

その後、一旦揉み合い下げるが
再び上昇し青丸の高値を再び大きく更新してきた。



オレンジ枠の目立つ高値を更新して

その後、揉み合って一旦下げ戻しの動きをしますが、その後再上昇して

さらに「青丸の目立つ高値群を大きく上抜け、更新していった」という場面ですね。

(※ちなみに、青丸のポイントのように目立つ高値が”集まっている”ようなところもオレンジ枠と同じように、これらをまとめて”目立つ高値”として捉えてください)

で、問題はこのとき

「上下を分けるラインを移動させるほど、相場が大きく変わったと言えるのか？」

というところなんですよ。

どうでしょう？

「相場が大きく変わった」と言えると思いますか？

それとも、先ほどと同じく

「上下を分けるラインを移動させるほど、大きくは変わってない」と思いますか？

しっかりと、今まで話してきたことを思い返して考えてみてくださいね。

上下を分けるラインの移動させるのか？させないか？の判断の仕方は

この白ライン（現時点の上下を分けるライン）が

「上下を分けるラインを引く場所」についての考えにまだ当て嵌まっているのかどうか？

ということ判断基準にしなければならなかったですよ。

つまり、この”白ライン”が（色々と省いて簡略化すると）

「上昇している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の”安値”に引けるライン」
「下降している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の”高値”に引けるライン」
のラインのままか？ということ。

こうして、考えると必然的に答えが出てくるんじゃないかなと思います。

そう、今回の相場の場合は
青丸の目立つ高値を更新し”白ライン”が
「上昇している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の”安値”に引けるライン」
ではなくなり
この「上下を分けるラインの引く場所の考え方に当て嵌らなくなった」から
『上下を分けるライン（白ライン）を移動させなければならない相場になった』
というのが、正解になります。

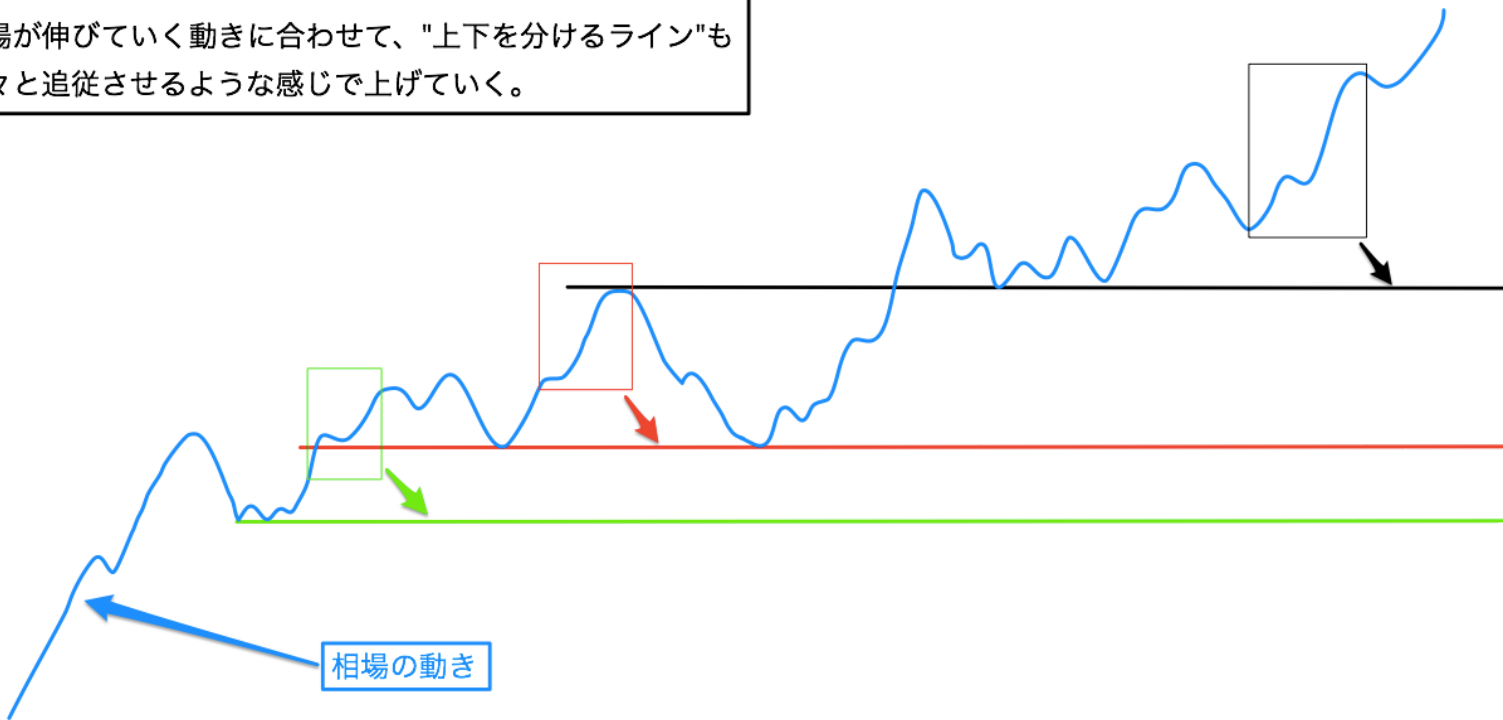
で、「上下を分けるライン」を移動させるとなれば、次に「上下を分けるライン」を
どこに移動させればいいのか？という疑問がまた新たに出てくると思いますが
これは、もうほぼ答えが出てますよね。

この時、「上下を分けるライン」は
そもそも「上下を分けるラインを引く場所」である
「上昇している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の”安値”に引けるライン」
「下降している相場であれば、支持点が多く、かつ目立つ直近の”高値”に引けるライン」
（簡単いうと）
に引くんですよ^^

そして、イメージとしては相場が目立つ高値（安値）を更新してさらに伸びていったんだから
「上下を分けるライン」もその”相場の伸び”に合わせて、相場の動きに追従していき
段階的に上げていくというイメージです。

図にするとこんな感じ↓

「緑」⇒「赤」⇒「黒」のラインのような感じで
相場が伸びていく動きに合わせて、“上下を分けるライン”も
段々と追従させるような感じで上げていく。



“青線”のフニャフニャしている汚い線が、相場の動きのイメージで

“**緑枠**”の動きが出た時点で”**緑ライン**”へ
“**赤枠**”の動きが出た時点で”**赤ライン**”へ
“**黒枠**”の動きが出た時点で”**黒ライン**”へ

それぞれ、「上下を分けるライン」を段階的に移動させていく感じです。

どうでしょう？

だいたいイメージできますかね？^^

こういう感じで、相場が上げていく動きに合わせて
段階的に、上下分けるラインも上げていく。

というイメージを持ちつつ

何回も説明してきている

『**上下を分けるラインを引く場所の”セオリー”となる考え方**』を

意識して、相場を見ていくと

“上下を分けるライン”を「移動させるタイミング」や「移動させた場合のラインを引く場所」も
結構分かりやすいんじゃないかなと思います。

なので、この『**相場が伸びて、前回の目立つ高値（安値）を大きく更新した時**』

に”上下を分けるライン”を移動させるパターンについては

今言った『**イメージ**』と『**上下を分けるラインを引く場所の”セオリー”となる考え方**』

の2つを特に重視しながら判断していくと、割とどんな相場に対しても
常に適切な場所に”上下を分けるライン”を引くことができます。

（ただ、何度も言うように

もちろん100%全ての相場に対応できるというわけではありませんが^^;)

で、話を戻しますが今回の相場でいうと

「上下を分けるライン」はこういう感じ↓で移動させるということになります。



移動させる前の”上下を分けるライン”が白点線だったんですが
青丸の高値（群）を大きく更新して、相場が大きく変わったから
その時点で **「上下を分けるライン”は水色ラインのところに移動する”**
ということになります。

そして、後は流れが続く限り同じことの繰り返しで

また、“目立つ高値”が出来る



それを更新する



「“上下を分けるライン”の引き方のセオリー」に当て嵌らなくなるくらい相場が大きく変わる
(この時、相場が大きく変わらなければ”上下を分けるライン”はそのまま)



“上下を分けるライン”を相場の動きに追跡させる感じで移動させる。

(移動させる場所は、今まで説明してきた

“上下を分けるライン”の引き方のセオリーになる場所)

そして、永遠に上げて続けていく相場はないので

いつかは”上下を分けるライン”を下抜けて“目線”が変わる。

という感じの流れになります。

今回は、“**上げの流れ**”が出ている場合で説明しましたが
“**下げの流れ**”の場合でも上下が変わるだけで全く同じです。

初めのうちは、少し混乱したりするかもしれませんが
この『**相場が伸びて、前回の目立つ高値（安値）を大きく更新した時に**
“上下を分けるラインを移動”させるパターン』も
過去相場などで練習をし、経験を積んでいくと必ず正しく判断できるようになっていくので
しっかりと使いこなせるようになってくださいね。

というわけで、“上下を分けるライン”を変更、移動させるタイミングについて
説明してきましたが、どうでしたか？^^;

「“上下を分けるライン”の移動のさせ方」としては
基本的には、今話してきたこの2つのパターンのどちらかしかないので
そんなに難しくはないと思います。

それと、今回話してきた「**“上下を分けるライン”の引き方**」含め
この「**上下を分けるラインの移動のさせ方**」についても
相場の背景部分となる『**日足&4時間足**』をベースにして
“支持点”だけでなく、相場全体の“流れ”や“動き方”、はたまた“形”などの
他の要素もしっかり考慮した上で
「**日足で見ればここに引ける**」「**4時足で見ればここに引ける**」
というふうにして、“日足”と“4時間足”を分けて考えるのではなく
“日足”と“4時間足”を複合的にミックスさせて考えていってくださいね。

“**上下を分けるライン**”も“**トレードに使うライン**”もそうですが
「**意識され機能するライン**」を正確に引くというのは、
初心者さんや経験が浅いうちは、本当に難しく感じると思います。

自分が引いたラインに対して「サポート（レジスタンス）された！」と思って
エントリーしても、そこまで伸びずに逆行して損切りに掛かってしまう、、、
という悔しい経験もたくさんする（もしくは、もうしている）はずです。

実際、僕もそういった経験は数え切れないほどしてきましたし
「**意識されるライン**」をしっかり正確引けるようになるまでは
かなり苦勞をしました。

「**なぜ、過去にはしっかり止められていて”意識されているライン”のはずなのに**
そのラインを使って、俺（私）がエントリーするときは意識されないんだ！」
と、思うことなんて日常茶飯事でした 笑

が、「**自分が引いたラインで意識されないのは必ず理由がある**」ということはただ、がむしゃらに“経験”を積んでいくことによって分かるようになりましたし
そうやって、“経験”を積んでいくと、今現在自分が感じ取れない“感覚”や“視えていないこと”が本当に自然に感じ取れたり、視えてくるようになってくるんです。

だから、『**自分が引いたライン機能しないのは、そのラインが機能するというそのラインに対しての相場の動き方が分かっていないから**』なんですよ。

要は、ただ単に“**経験不足**”なんです^^;

なので、『意識されるライン』をしっかり引けるようになるためには
なんだかんだ、本当に練習あるのみで“ライン”は引く練習をすればするほど
確実に上達していきますし、誰でも必ず正確に引けるようになるので
今現在、“ラインの引き方”などに対して苦労している方も
絶対に諦めず、“ライン”を引く練習は「これでもかっ！」ってくらい
ガンガンしてってもらいたいです。

本当に、**数十年という人生のたった数ヶ月**でいいので
そのたった数ヶ月を全て“ライン”を引く練習に捧げてみてください。

たった数ヶ月ラインを引く練習を本気でするだけでも、お世辞抜きでかなり上達しますし
“ライン”がしっかり引けるようになると、相場の見える景色が本当に変わります。
(勿論、良い方向に)

FXは、はっきり言って簡単ではないですが、されどそこまで“鬼”でもありません^^
自分が頑張れば、それ以上のご褒美が“お金”としてダイレクトに返ってくるので
ぜひ、諦めずに本気を出して頑張っていってくださいね。

ということで、長々と話してきましたが
この【**ラインの指南書**】は、これで一旦“**完成**”とさせていただきます。

とはいえ、この他にもまだまだ「ラインの引き方の型」となる相場の“流れ”や“形”などは
本当に“**無数**”と言えるほど存在していて、とても全てをここで一つずつ取り上げて
紹介、説明していくのは無理があるので
そういった部分も含めて、年初めの[こちらの記事](#)で言っていた
『**メンバー制の会員サイト**』の方で分かりやすく、随時紹介&説明していこうと思います^^

で、その『**メンバー制のサイト**』のイメージとしては
そのサイトに、膨大な数のその時々相場の対しての
「**正しいラインの引き方**」や「**そのラインを使った狙い方**」の“サンプル”のようなものがあって
それをメンバーさんが自由に閲覧でき

「こういう時はここにラインを引く」

「この流れの場合の上下を分けるラインはここに引く」

「そして、そのラインに対してこうエントリーしていく」

と、いうようなことが”ケースバイケース”で一発で分かるようにして
そのサンプル自体も

僕がリアルタイムの相場でライン（上下を分けるラインも含む）を
引いて画像なり動画を随時アップしていくので、常に増えていくし
メンバーさんはそれを自由にダウンロードやプリントアウトができ保存して
常にガンガン学習していける感じにしていきたいと思っています。

そうすれば、

「あ！こう時の相場に対しては〇〇のサンプル通りにラインを引けばいいな！」

「これは、〇〇のサンプルと似たような相場だ！

じゃあラインはここに引いてこう狙っていけるよね^^」

というような感じで、ある程度どの相場に対しても
しっかりと”意識される強いライン”が引けるようになるはずですし
どんな相場に対しても臨機応変に戦っていけるようになるので
そういった「トレードに使う正しいラインの”引き方”や”使い方”」などを
しっかり覚えれば、かなり短期間のうちに”勝ち組”に入り込むことができるはずです。

まだ、その「メンバーサイト」自体は開設していませんが
今は（2018年5月現在）は“開設”する方向で進めているので
是非とも楽しみにしておいてくださいね。

特に、「しっかりと機能するラインがうまく引けない」という方は
綺麗事抜きに、ぜひその”メンバーサイト”に入会してもらいたいと思っています
そういった「メンバーサイト」を作るからには、全力かつ本気で作っていきますし
「メンバーさん達全員を”トレードに使える精度の高いライン”を引けるようにさせる」というのが
僕の”責務”だと思っています。

なので、その「メンバーサイト」で【ラインの指南書】に引き続き
”ラインの引き方や使い方”をしっかりと習得してってくださいね。

ということで、この【ラインの指南書】については
とりあえず、この辺りで締め括らせていただきます。

長くなりましたが、最後までお読みいただき
また、お付き合いいただきありがとうございました^^

PS, この【ラインの指南書】はご自由にダウンロードしていただいてOKなので
ぜひ、繰り返し読んで「意識される正しいライン」を引けるようになってくださいね。

(※ただし、無断転売や販売などは固く禁じます)

【利用規約】

(こちら↑から「利用規約」を必ずお読みください)

※最後にお知らせです

この度、以前からたくさんのご要望をいただいていた「LINE@」を始めました。

僕がやっている「メール講座」以外で、

”僕の相場に対する考え方”

“リアルタイムの相場に対して僕が狙っているポイント”

”注目すべきポイント”

などを、”もっと要点のみについて簡潔に、かつ高頻度”で皆さんに届ける手段が欲しかったので
それには「LINE」が打って付けの手段です 笑

「今はここを狙ってるよ～」

「こういう動きになったら、エントリーしていけるよ～」

などを、メール講座よりも高い頻度で配信していきますので、ぜひ”友だち追加”して
しっかり”安定して利益を上げられるようになるため”にも

僕がどういった視点や考え方で、エントリーや決済をしているか？

また、徹底してリスクを最小限にし、確実にトータルで利益を出していくための

“相場の見方や、リアルタイムの相場に対しての狙い方”などをばっちり盗んで

”コピー”して行ってくださいね^^

【"福沢のLINE@"を友だち追加】

(↑クリックで友達に追加できます)

(2017年12月8日 公開)

(2017年12月19日 更新)

(2018年5月10日 更新、完成)

著・福沢